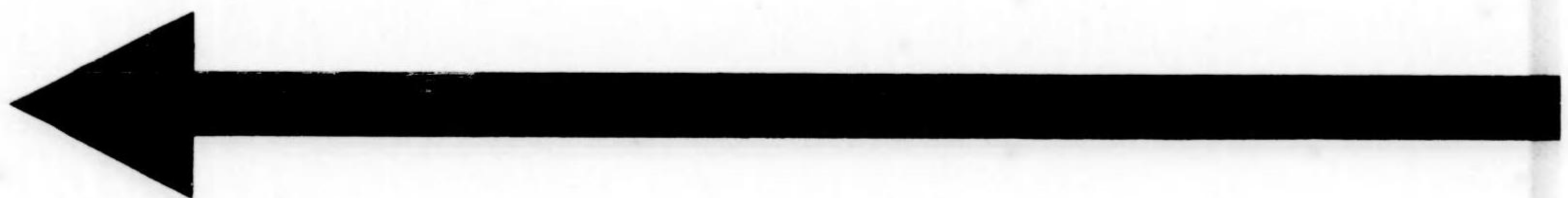
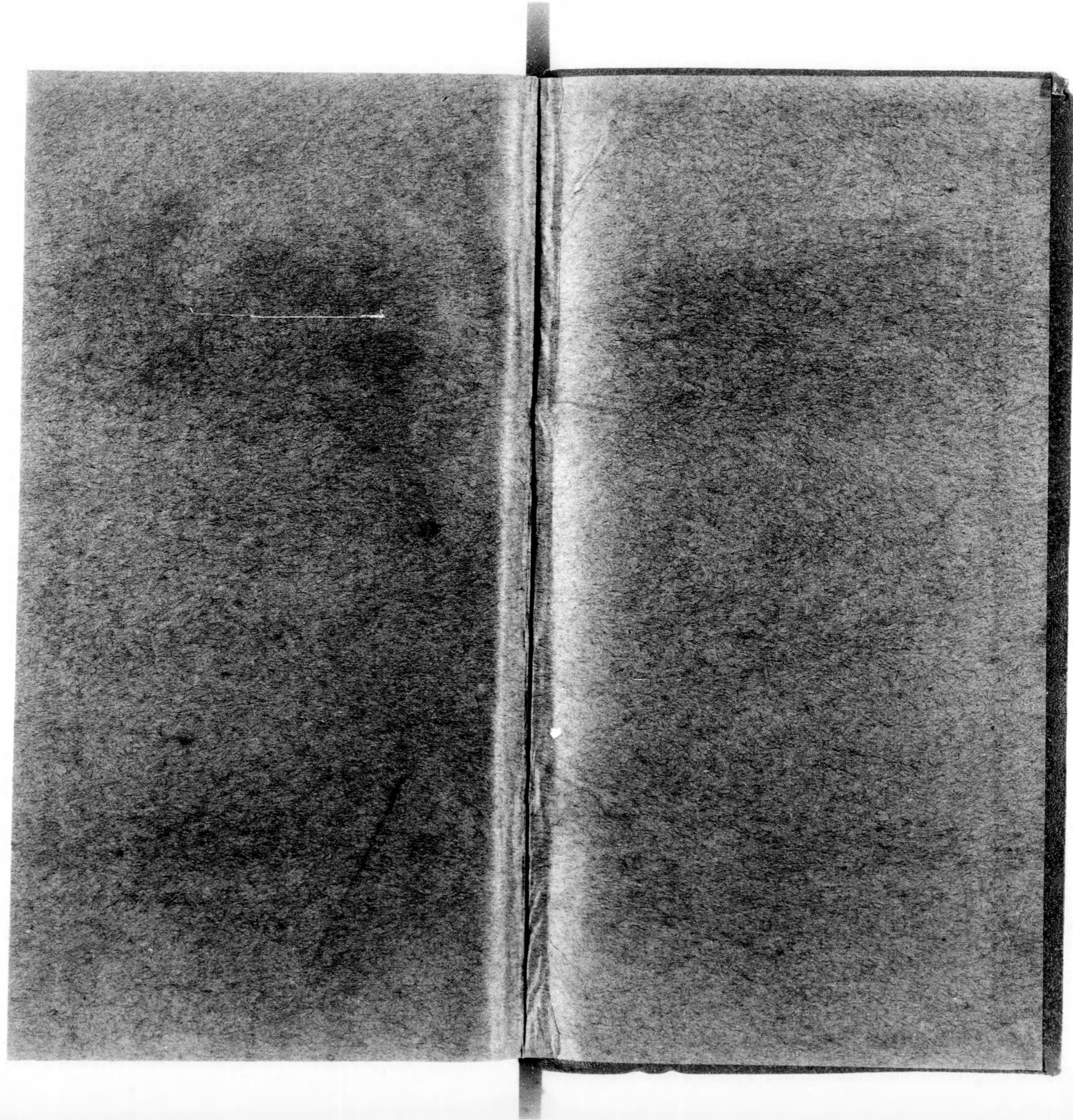


始



大正の秋田





特103
268



鈴木吉祐著

大正の秋田

附商工人名録

大正
2. 7. 21
寄贈

著者 寄贈本

北國の秋

啞鈴子

北方に白雲流る

其下に紅く染みたる

山蒲萄の葉

序

現在の秋田市は未だ惰眠より醒めざる状態にありと雖も東北有数の都會たるのみならず秋田縣の首都たり。然れども單獨に市の情態を紹介せしものあるを聞かず、殊に近年他府縣との商取引漸く頻繁にして遊覽の旅客亦日に多きを加ふ。而して此等客の市情を識らんとするの情切なるを満すべきものなきを聞き、予、常に之を遺憾とし、輒ち本冊子を編著し以て之が紹介を普せんと希ふ、幸にして些かたりとも市の爲め裨益するところあらは予の過分とするところなり。

大正二年五月

著者

例言

- 一、本市に未だ商工人名録なるものなし、之を附したる所以なり。
- 一、名勝舊蹟神社佛閣等は市附近所在のものをも入れたり。
- 一、著者は郷を愛するの念深く記事應々議論にはしたる處あり讀者の寛容を希ふ。
- 一、著者未だ編著の經驗に乏しきか故に及はざる所多し次版に之を改むべし。
- 一、本書編著にあたり聲援せられたる諸君に對し茲に感謝の意を表す。



吳服太物洋織物
國產織物業

秋田市大町二丁目

カ 會社名 風間吳服店

電話 十一二二番
振替口座東京三〇九八番

全 洋服部

振替口座東京一五二四三番

◎◎各國絨及洋服業
i k 式防水マント發賣店

藥種

秋田市本町五丁目

化粧品
と
卸小賣
橋本博愛堂藥局

醫師處方箋調劑

藥學得業士
藥劑師

橋本廣治

電話三五七

大正の秋田目次

○位置	一	○新聞	一六
○地勢	一	○時報	一七
○氣候	二	○圖書館	一八
○面積	三	○學校	一八
○戶口	四	○保護所	二一
○租稅	四	○病院及醫師	二二
○選舉權	六	○商業會議所	二三
○議員	六	○銀行	二九
○沿革	七	○信用組合	二九
○市政	九	○保險代理店	二六
○官衛公署及團體	一二	○商業	二四
○演武場	一五	○工業	二三
		○會社	三七

大正
2.7.21
寄

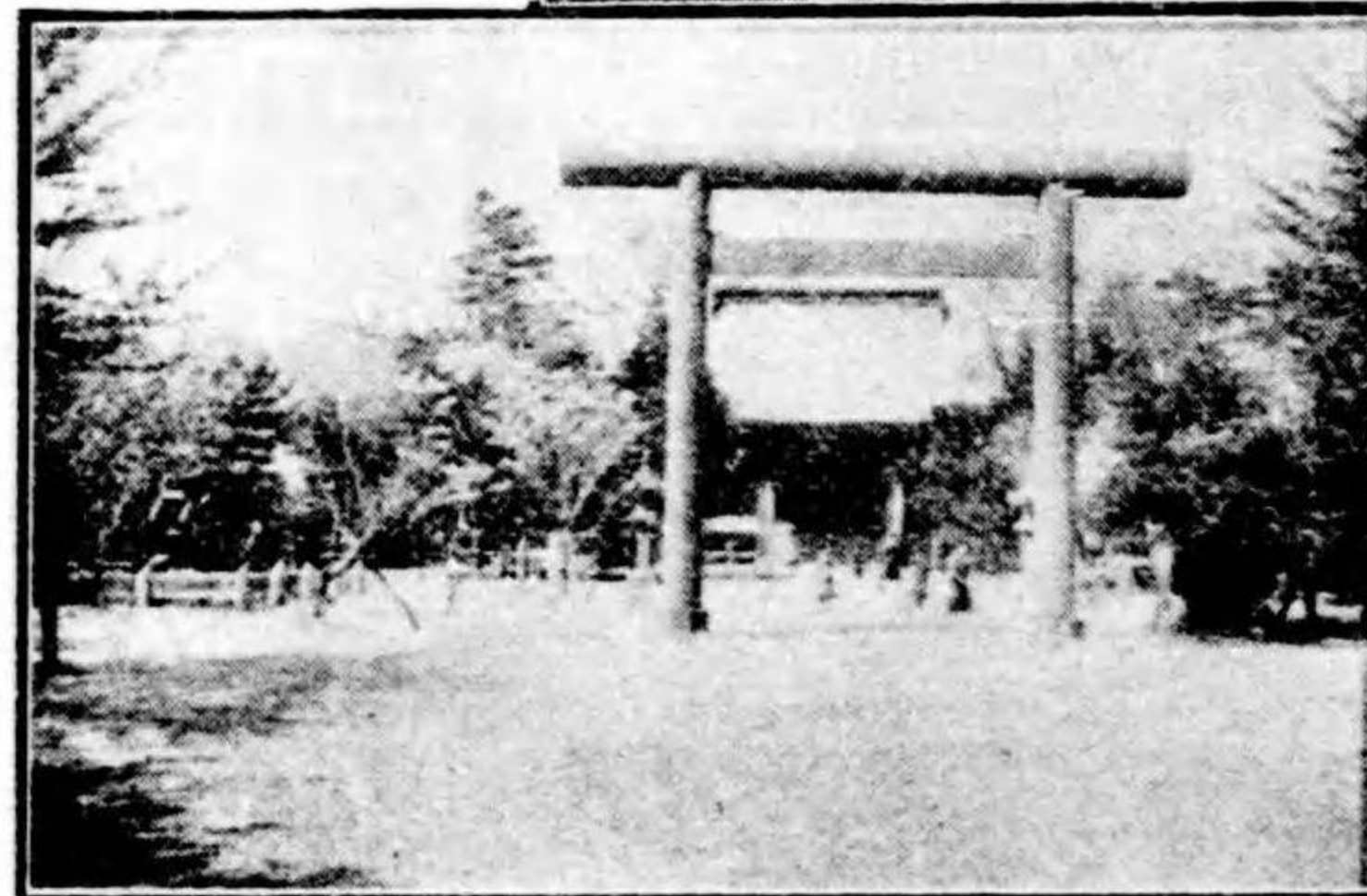
○重要物産	三九	○料理屋	七二
○人情	四二	○菓子舗	二七
○風俗	四三	○秋田音頭	七三
○風景	四四	○竿燈	七五
○名勝舊蹟	四五	○秋田萬歳	七五
○佛閣	六〇	○秋田藝者	七六
○神社	五二	○遊廊	七七
○教會	七〇	○縣内各邑に至る里程	七七
○劇場	七〇	○雜記	七七
○勸工場	七一	○附近名邑	七七
○集會所	七〇	○追加	八一
○旅館	七一	○商工人名錄	一六八
○下宿屋	七二	○著名商店及都々名吟集	八三一—一一〇



秋田公園市街ヲ望ム



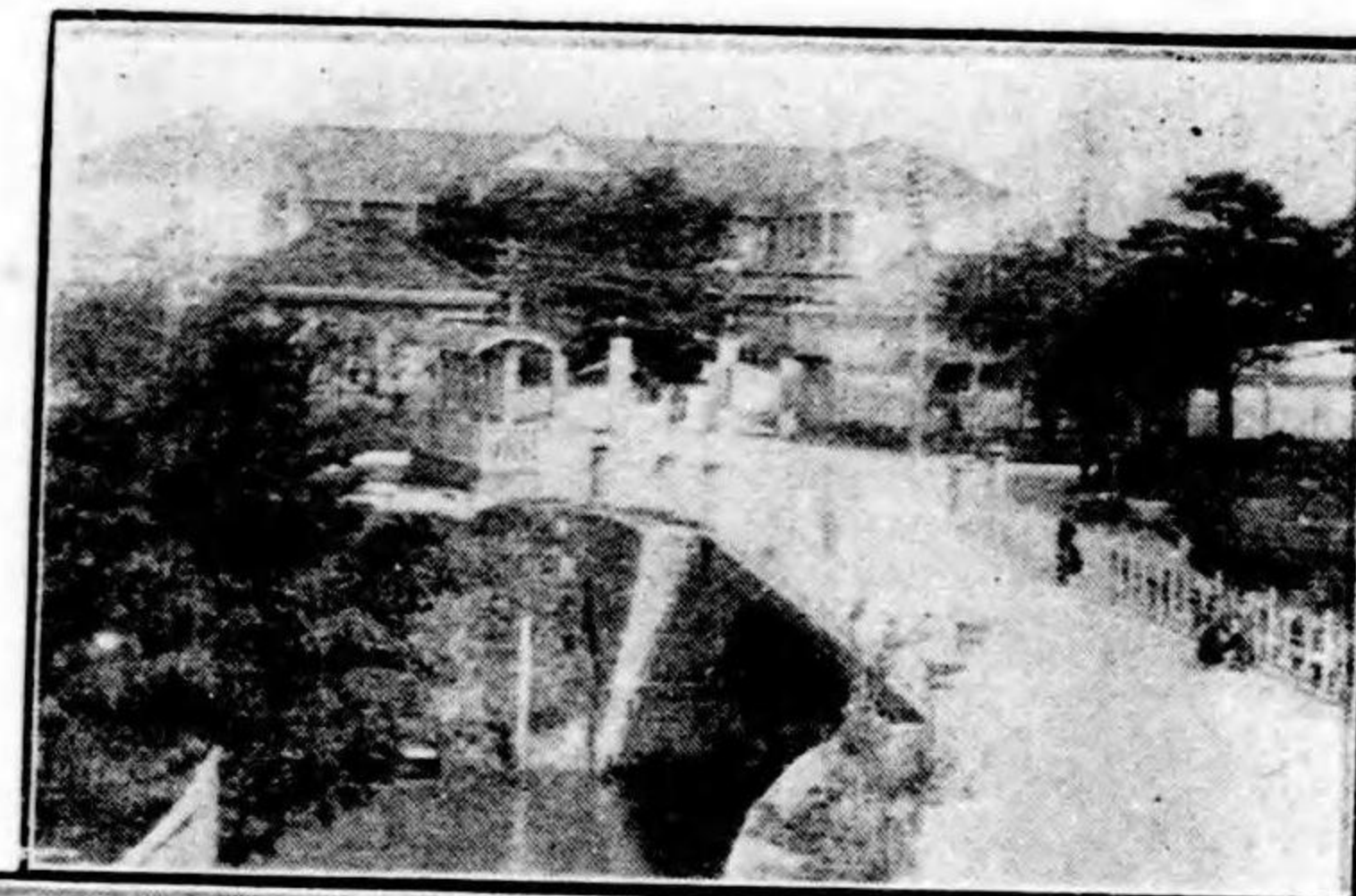
川反の景



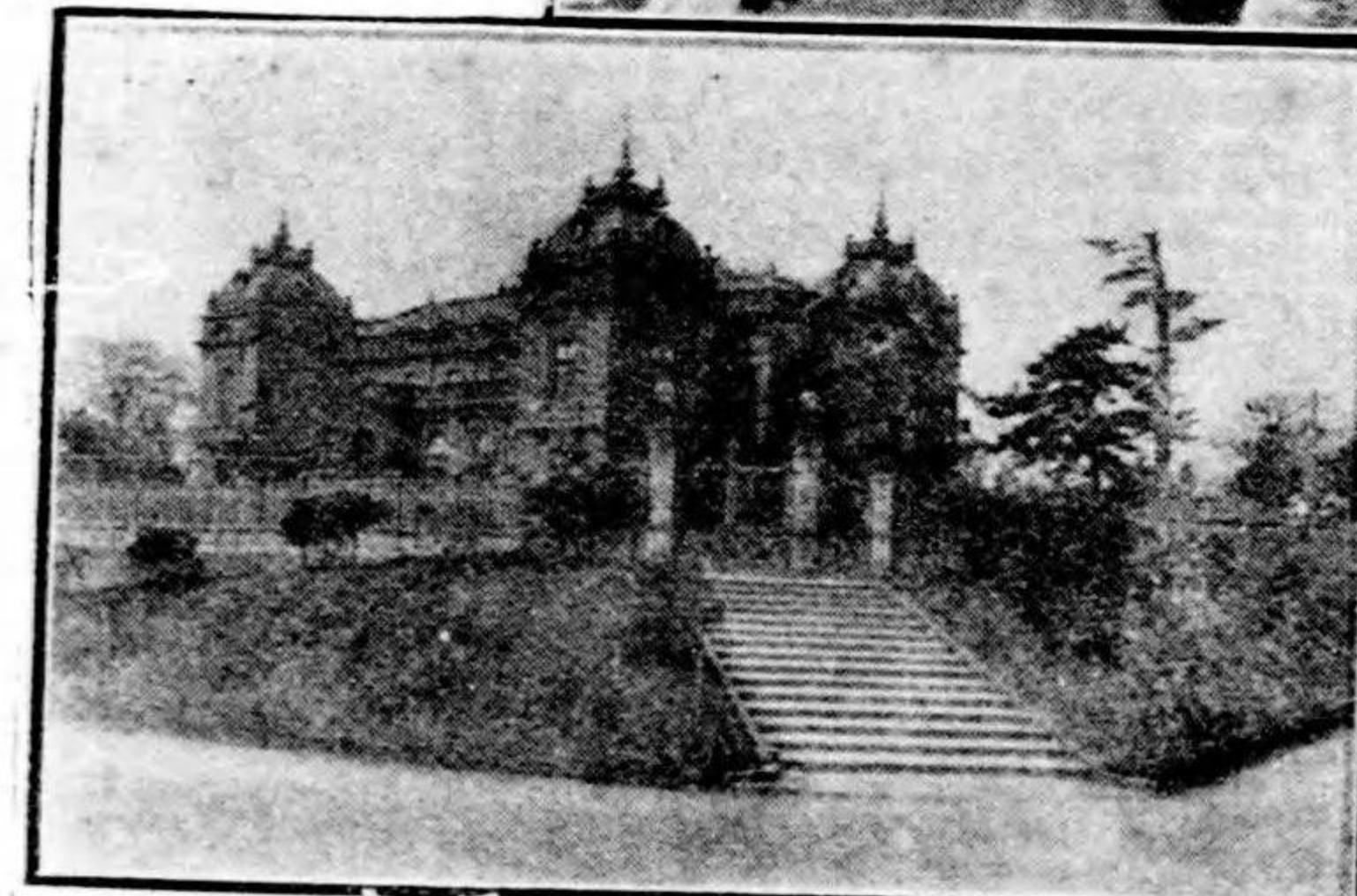
秋田招魂社



秋田の雪景



秋田縣廳



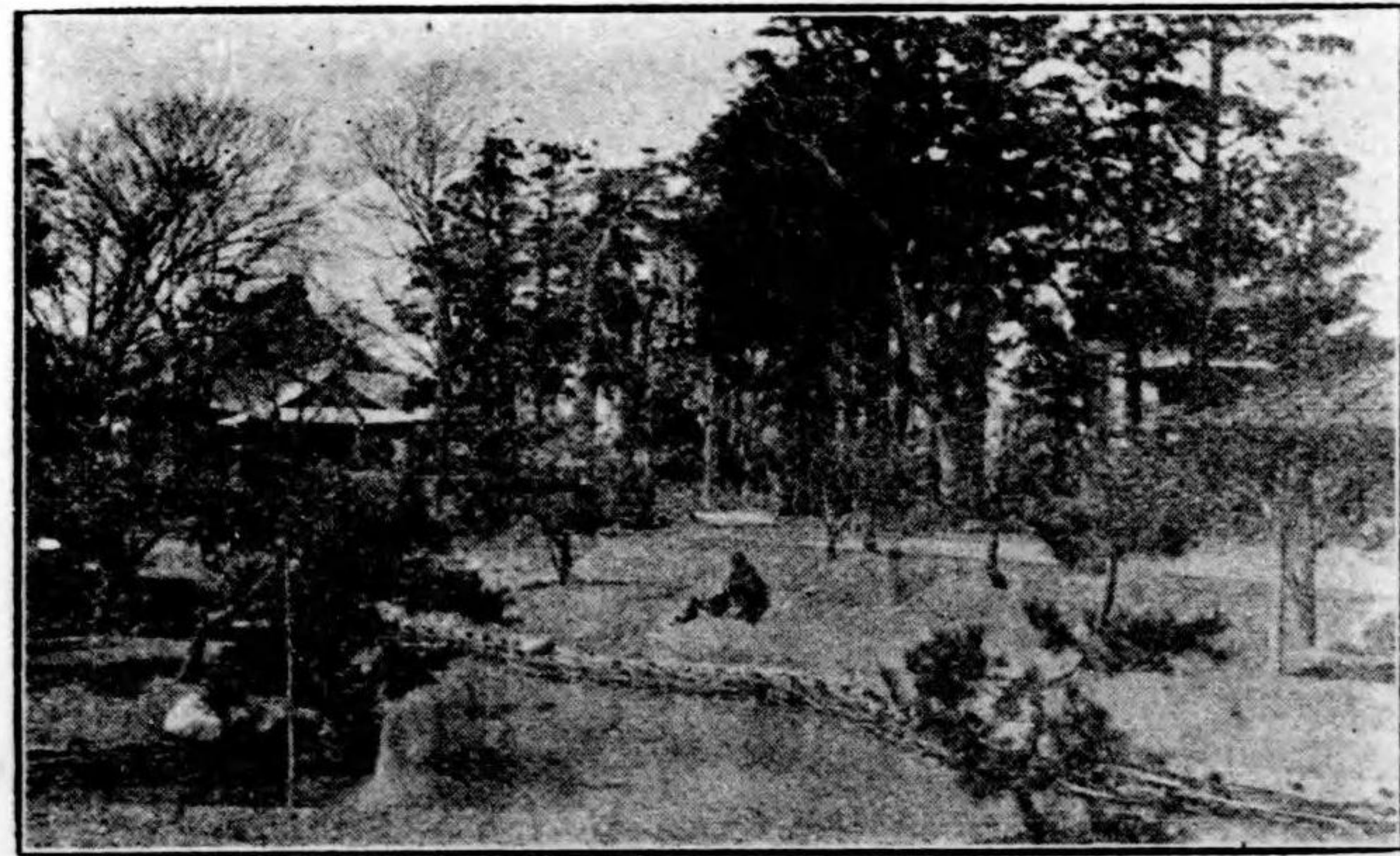
縣公會堂



赤十字社秋田支部



園 公 秋 千



園 公 橋 八 田 秋



燈 竿 物 名 田 秋



秋
田
露



大正の秋田

附商工人名録

◎位 置

秋田市は秋田縣の西部中央に在り、日本海を距ること約一里にして東北西の三面は田圃丘陵を以て南秋田郡廣山田村、旭川村、寺内村、川尻村の四ヶ村に接し、南は太平川、俗稱檜山川を隔て、河邊郡牛嶋町に界す。

東經 百四十度七分

北緯 三十九度四十二分

◎地 勢

土地概ね平坦にして市の中央を貫流するを旭川と謂ふ、其源を仁別森林を以て天下に名高き南秋田

〔呉服太物商〕

大町二丁目一

赤のれん 川尻 清藏

同 二五

卸商 金子 文藏 電話二三番

卸商 下 同 二二 會藤 田新次郎 電話一八番

郡仁別山に發して雄物川に注流す、旭川の東部は内町と稱し舊藩士の居住せし所にして、今は官衙公署、學校等多く、西部は外町と稱し商估の軒擔櫛比する所なり。

海拔 最高十八尺
最低 四尺

●氣 候

日本海に暖流を有するか故に氣候概して温暖なれども雨雪の量多し、風は四季共に感ぜざるはなく殊に秋冬季に於ける西方又は北西より襲來するものは寒冷なり、而して冬季は長く降雪二尺以上に及ぶことあり、寒氣激烈にして吹雪頻々たり、櫻花は大概五月上旬綻び、早稻は十月初旬に収獲す

同
美代壽織本舗 皆川 豊治

大町二丁目三二

辻合資會社

辻 兵吉

辻 良之助

電話七七番

同

二九

合名 風間吳服店

風間 清吉

風間 音吉

電話一二番

ることを得べし、霜は雪に比して少なく、十月下旬に於て降る。

空氣の壓力 最高七七二^程九
最低七四五〇

(十一月十五日)
(八月十六日)

空氣の溫度 最高 三三、四
最低零下二七、九

(八月二十八日)
(二月十一日)

●面 積

市の廣表東西二十三町にして南北三十一町なり、而して面積は零方里二八八とす、此の外附近の町村は市に接續して宛然一市の觀をなすものあり、川尻、八橋の二村、牛嶋町等之なり、而して前二村は頓て市に併合せらるべしといふ。

現在市の面積は左の如し

公有地 百七十七町一反四畝五歩

地織縞元祖 同 一九
小 松 福 治
電話四二七番

大町三丁目

齊 藤 豊 治

電話二六三番甲

同

國產織物
吳服太物卸商

佐 藤 多 吉

電話三二一番

本町四丁目一八

加 賀 谷 正 司

電話一三二番

本町四丁目二九

二 星 商 店

電話二四二番

民有地 參百五十町九反八畝一步

●戸 口

秋田市の現在の戸数は六千二百四十四戸にして本籍人口は三萬五千〇四十八人なり、之に出寄留の人口は五千五百七十一人にして入寄留は六千〇二十四人なり、而して差引現在人口は三萬五千五百〇一人なり(大正元年度)

◎租 税

市民の負擔額は年々増加して底止するところを知らざる有様なり 市況不振に加へて重税を課せらるゝか故に下級貧民に至つては慘狀みるに忍びざるの狀態に在り、然るに積極的に市政方針を採らんとしつゝある市當局者は市民に尙ほ充分の負

同 一六

佐藤 第吉

同 一五 電話三四九番

同 山尾 友吉 電話五四八番

同 本町五丁目三七 近江 倉吉 電話四四四番

同 川口 傳助 電話一六三番

同 新田 目猪藏 電話一六八番

擔能力ありごなし居るものゝ如し、而して市費十三萬餘圓を要すべき本市に水道事業其他の爲めに五拾餘萬圓の市債を有す明治四十五年度の税額は左の如し

地租	一七、四八、二〇〇	酒 稅	八、〇五、九四〇
地稅	三、一八七、五五〇	賣藥 營業	七〇、七九七、〇九〇
地稅	五、四三三、七〇〇	醬 油	二、〇〇九、三七〇
地稅	八、〇二五、九四〇	營業(銀行)	二、七八八、三三〇
地稅	二、九五四、一七五	戶 數 割	七、二八、六五〇
地稅	二、八五五、〇〇〇	所得稅附加	三、三三、八二六
地稅	九、七〇〇、二〇〇	雜收入賦金	五、六四、六八〇
地稅	五、五〇八、八六〇	雜種附加	九、七〇四、四九〇
地稅	一、五〇四、九三五	戶數割附加	五、六六九、六三〇
地稅	八、三〇一、二六〇	特別所得	二、一四、六六〇
地稅	八、五二一、二〇〇	授業料	六、三四五、八四〇
地稅	二、八三三、〇四〇		

本町六丁目

山崎 佐吉

電話四〇六番

茶町扇ノ丁一〇

泉 忠右衛門

同 二一

加賀 谷喜助

電話二二二番

同 山尾 吉右衛門 電話一五五番

同 上通町三電路(○ナカ)又(ナカ) 中村 季橘 電話三二三番

吳服太物國産 織物吹止眞綿

吳服太物 夜具蚊帳

夜具ふきん 蚊帳膝掛 古着伸縮掛

●選舉權

貴族院議員互選の多額納税者は秋田縣を區となして、下院議員は一人、縣會議員一人を選出す。市會議員は三十人にして、二選舉區に分ち、商業會議所は市の外土崎港、牛嶋町を通じて三十五人なりとす、而して最近各有權者數は左の如し

- 多額納税者 五
- 衆議院 六三二
- 縣會 八八八
- 市會 一六〇九
- 商業會議所 二六三

●議員

貴族院議員 (一名)

衆議院議員 (一名)

本間 金之助

井上 廣居

吳服太物國産織物せんまい織

野手

宇吉

電話三三二番

金子

長治

同

橋本

茂助

中通町八

島山

三藏

大工町一八

越前屋

磯治

電話五二二番

縣會議員 (一名)

市川 護 幸

市會議員 (三十名)

大正二年四月十一日總選舉後ノ席次ニ依ル

- | | | |
|---------|---------|---------|
| 佐藤 文右工門 | 加賀谷 長兵工 | 加賀谷 富太郎 |
| 高堂 兵右工門 | 辻 兵吉 | 村山 三之助 |
| 片谷 永之助 | 田村 作治 | 籠谷 定雄 |
| 原 平藏 | 花卷 安吉 | 湊 鶴治 |
| 箱岡 忠吉 | 中西 德五郎 | 石橋 忠三郎 |
| 市川 護幸 | 深味 春三 | 三好 卷次 |
| 永井 喜久治 | 安藤 和風 | 田中 太吉 |
| 佐野 八五郎 | 鈴木 安孝 | 小野 鐵之助 |
| 江畑 省三 | 長谷川 勝太郎 | 鈴木 喜右工門 |
| 山縣 操太郎 | 白根 東吉 | |

●沿革

同

五〇

風間 金治

電話四〇二番甲

中通町

龜谷

清吉

同

町

協佐

同

三

長谷川 定吉

東根小屋町

遠藤 小太郎

秋田には三種の城趾あり、一は寶字五年出羽柵を改稱せし高清水郷 寺内村)の秋田城、二は秋田(安東)家の秋田城(港城ともいひ、土崎港にありしもの)三は佐竹家の秋田城(久保田城)これなり佐竹家の城趾は聖武天皇神龜元年總社明神を鎮坐せし三森山(大嶽山、小嶽山、光明社是にして後平夷し靈泉臺、御隅櫓、八幡社となれり)にして又神明山、伊勢山、總社森とも稱せるか慶長八年佐竹義宣か城地を茲に營むに際し、總社明神を檜山下濱に移し更に寶永四年を以て川尻村に再遷せり、縣社三森山神社是にして、詳細は川尻村總社明神の條に詳し。

秋田城は遷後一時港城に在りしが佐竹義宣が、規

吳服太物
新古衣服類

茶町菊ノ丁電略(ス)又ハ(スキ)

鈴木喜右工門
電話一三番

横町五

山内富治

牛島橋通町二七

小野良藏

本町四丁目

遠藤清吉

吳服太物
國産織物

土手長町
新田目小助
電話四一四番
電話一三七番

模狭少にして一藩を守るに足らざるを察し、慶長八年五月家老澁江政光、梶原美濃に命じて神明山に築城せしめ全九年八月竣功す、別に箭館、箭留城ともいふを居城と定め、其周圍に市區を經營して爾來廢藩置縣に至るまで星霜を閲すること二百數十年間佐竹家累代の居城地なり。

市 政

明治維新百般の制度釐革せられ、次いで全四年六月廢藩置縣となり、縣内を大小區に頒ちしとき、本市は第一大區に属し、更に之を三小區に劃せられ、全十年十二月郡區町村編制法施行の當時、南秋田郡秋田町と稱し、各町を十一組合に分ちて戸長區域を設けたり、同二十二年四月市町村制實施

新聞販賣

大町一丁目報秋堂
田口松太郎
電話四六三番

藥種商

上通町
佐野八五郎
電話六五番

茶町梅ノ丁
大嶋長三郎
電話一二〇番

に際し各組合町を合併して秋田市とせり、六月一日より市役所を開廳し、市長として小泉吉太郎氏助役として根田忠正氏、收入役として大山泰藏氏就任せり。

廢藩置縣と共に士民共に職を失ひ、加へて明治十九年四月大火あり外町商業地殆んど烏有に歸したり、舊藩時代は人口四萬以上を有して殷盛を極めたりしが、逐年衰微の傾を呈し、縣内各鑛山の興起と共に士民の轉住するもの多く或は北海道に移住し一時人口一萬五千人以下に減退せり、併し乍ら明治三十一年兵營の設置、同三十五年奥羽鐵道全通以來交通の便開け、漸次頹勢を挽回し面目を一新するに至れり、加之明治三十八年八月市區擴

茶町菊ノ丁

藤井 勘助 電話二二三番

本町五丁目

橋本 廣治 電話三五七番

本町四丁目

佐藤 信庸 電話三一六番

下長町

コノ、レーア 井上 喜辰堂

川反四丁目

若松 謙次郎

藥と化粧品

張の實施となり、郡村九字を市に編入せしに由り戸口年々増加し戸數は明治四十二年二月現在六千二百二十七、人口三萬四千四百七十一人に上れり、又明治四十年二月公衆電話開通するに至り、市營の上水道は全年中竣功して全市に給水をなし、市民清冽の水を使用し得るに至れり、次いで明治四十年十二月商業會議所の設立ありて商業の發展を計るあり、電燈事業の興起、瓦斯の供給等により逐年交通、衛生、産業等の機關完備を告ぐると共に戸口増加し殷富に赴く傾向を示しつゝあり、而して各學校の新築設備亦將に其功を告ぐ、機業、金銀細工等稍々其緒に就くも猶ほ起すべき事業多々あり、然れ共水陸の富豊饒なるを以て生活難を

〔生糸仲買商〕

上龜ノ丁

古道 豊吉

〔酒造業〕

四十間堀川反

佐藤 左吉 電話五一〇番

横町

加賀谷 源右工門

電話三三三番

感せず人氣悠長にして勤勉努力の心乏しく、爲めに産業は頗る不振にして單に各官衙公署、學校及其他附近村落の需要を充たすに過ぎざるなり、市の資本家即ち富豪は、商工業者にあらずして地主兼貸金業者なり、事業なるものを顧みざるか故に企業家あるも空手傍觀するの外なかりしが、近時富豪も漸く資金流通の緩漫に苦しめられ、且つ時勢の進運、人文の發達と共に事業の必要を認めたるの傾向を見るに至れり、從而本市の産業も永く不振の状態にあるを許さざるべしと思はる。

●官衙公署及び團體

市は一縣の政治の主府にして、又た社交、商業の中樞地たり、故に各種の官衙公署並に公共團體の

上通町

野口 周次郎

川反一丁目

電話二六〇番

ほごよし

高堂 兵右工門

電話一六九番

中通町

菊谷 民治

電話四三二番

檜山牛嶋橋通町

廣嶋 新之助

〔醬油釀造業〕

事務所等多く此處に集る、其所在左の如し。

秋田縣廳 (土手長町) 警察本部 (縣廳構内)

秋田産米検査所 (同) 歩兵第十七聯隊 (廣小路)

縣會議事堂 (同町) 秋田地方裁判所 (同町)

物産陳列場 (同町) 秋田區裁判所 (同町)

蠶種豫防事務所 (同) 登記所 (廣小路)

歩兵第十六旅團司令部 (部下中城町)

秋田聯隊區司令部 (全町)

秋田稅務監督局 (中龜ノ丁)

秋田稅務署 (全町) 秋田鹽務局 (監督局内)

秋田大林區署 (東根小屋町)

秋田小林區署 (同)

秋田郵便電信局 (本町四丁目)

大町三丁目

田中 太吉

電話七〇番



上通町

佐野 泰治

電話一三三番

四十間堀川反

佐藤 左吉

電話五一〇番

中龜ノ丁

小玉合名會社支店

電話二六六番

本町五丁目

船木 久吉

電話三六七番

三等郵便局 廣小路、保戸野、檜山、通町、馬喰町 手形、(表鐵砲町)
 秋田電話交換局(秋田局内)
 憲兵分隊屯所(大町一丁目)
 赤十字社支部(東根小屋町)
 秋田營業事務所(秋田驛前)
 秋田建築事務所 同秋田停車場(長沼町)
 縣農會(縣廳内) 秋田測候所 (牛島町)
 秋田縣衛生試驗場(牛嶋町)
 秋田縣農事試驗場(牛嶋町)
 秋田縣圖書館(公園) 公會堂(千秋公園内)
 秋田監獄(川尻村) 秋田衛戍病院(上中城町)
 秋田警察署(大町三丁目)

本町六丁目
 那波良助
 電話五三九番乙

時計貴金屬
 蓄音器

余

茶町菊ノ丁

岡田太吉
 電話六二番

下長町

石黒時計店

大町二丁目

蜂屋正治
 電話二一九番

時計貴金屬
 屬

秋田育英會(縣廳内) 感恩講(本町六丁目)
 秋田就業會(船大工町)
 執達吏役場(東根小屋町)
 秋田出獄人保護所(檜山下濱町)
 東部感恩講(中龜ノ丁)
 秋田勞働者慰籍會(城町)
 秋田市役所(土手長町上町)
 官煙秋田出張所(東根小屋町)

●演武場

本市は舊藩時代より武道盛んにして、各所に道場散在す、其重なるものを擧ぐれば左の如し
 武德殿 官設にして建築壯麗を極む、千秋公園内にあり。

〔寫眞館〕

中長町二〇

八柳岩次郎
 電話一一三番

川反二丁目

佐藤伍助
 電話三二九番

寺町

長崎寫眞館

下龜ノ丁

宮崎寫眞館

國粹館 富豪平野温之助氏の創設せしところにして柔道専門の道場なり、本町四丁目にあり。

揚武館 檜山裏町にあり古き歴史を有する道場なり、古來檜山男子と稱せしものは此の道場にて武を練りしものなり

報國館 西根小屋町にあり
練武館 手形谷地町にあり

●新聞

明治六年十月柴村藤次郎氏社主となり、主筆秋田沿革史著者旭峯狩野徳藏、印刷人松本讓氏等經營のもとに秋田遐邇新聞を發刊す、之れ本縣新聞の蒿失にして後改題して秋田日報となし今の國民黨首領犬養毅氏及び大久保鐵作氏等經營發行す、次

大工町
工藤一眼堂

〔漆器商〕

下肴町四四
大嶋 勘 六
電話七八番

茶町扇ノ丁
齋藤新五郎
電話三六〇番

〔陶器商〕

豊嶋町一
那波陶器部
電話一一番

茶町扇ノ丁
武田 幸吉
電話三三五番

上通町
松村三之助
電話三三一番

〔酒類小賣業〕

大町三丁目
櫻庭鐵藏
電話三一九番

いて秋田時事發行せられたりまた小野崎秋城、白土清忠等の秋田日々新報創刊せられ、明治二十二年秋田魁の前身なる秋田新聞創設せられ長井金風氏等専ら筆を執られたり、其後種々なる名目のもとに新聞經營せらる、秋田公論、東北公論等發刊せられしか現今發行せられつゝあるものは左の三新聞とす

新聞名 位置 經營者 號數(大正二年四月十日)

秋田魁新報 大町二丁目 井上廣居 七七七二

秋田時事 大町二丁目 永井喜久治 九六二三

秋田毎日新聞 中長町 徳藏 五六二一

●時報

日刊以外に産業の開發に資せん目的を以て發刊せ

られつゝあるもの左の如し

題名 位置 經營者 發刊數

秋田實業週報 大町三丁目 石川正吉 月三回

秋田石油アス 上通町 石油鑛業會 月二回

フアルト時報 報 茶町梅ノ丁 秋田商業會議所 月一回

◎圖書館

秋田縣所管にして和漢洋書約五十萬冊を藏し、大阪、山口兩圖書館と共に地方三大圖書館として知らる。

◎學校

本市の教育機關は稍々完備の状態にありと雖も最も産業開發の急務を有する本市に一の商業教育を施すべき設備なきは甚た遺憾なりと謂ふべし。



秋田鑛山專門學校

校名

官立秋田鑛山專門學校
縣立秋田縣秋田中學校
同 秋田工業學校

所在地

手形山崎町
東根小屋町
原野町

田中町

藤田千代吉

電話三〇二番

茶町扇ノ丁

湊 太一郎

電話三六六番

馬口勞町

伊藤 東吉

電話二七〇番

東小根屋町

高橋 正三郎

電話四一七番

〔綿糸商〕

綿糸 漁網糸

茶町菊ノ丁電路(コヒ)又ハ(コ) 小嶋 彦右衛門 電話六一番

綿糸製 綿太物

同 成見 清吉 電話三〇七番

〔製綿業〕

製綿

茶町扇ノ丁 山尾 吉右衛門 電話一五五番

〔紙及荒物商〕

同 秋田縣師範學校	手形山崎町
同 秋田縣女子師範學校	東根小屋町
同 秋田縣高等女學校	中嶋町
私立秋田女子技藝學校	土手長町
同 秋田女子職業學校	龜ノ丁本町
市立秋田工業徒弟學校	下中城町
同 秋田商業補習學校	東根小屋町
同 中通尋常小學校	東根小屋町
同 旭南尋常小學校	馬喰町
同 旭北尋常小學校	豐嶋町
同 築山尋常小學校	檜山南新町
同 明德尋常小學校	下中城町
同 保戸野尋常小學校	保戸野諏訪町

上肴町	三浦	傳六	電話五九番
茶町梅ノ丁	那波伊四郎	電話一四番	
川反二丁目	電話(クト)	電話一四番	
諸官署	工藤泰造	電話一〇番	
茶町菊ノ町	三浦千代松	電話二一五番	
中通町	茜谷吉右衛門	電話二五一番	



秋田縣師範學校

縣立女子師範附屬小學校	東根小屋町
縣立女子師範附屬幼稚園	東根小屋町
私立福田小學校	保戸野仲町
同 秋田幼稚園	上長町
同 檜山幼稚園	龜ノ丁本町
同 保戸野幼稚園	保戸野愛宕町
●保護所	
位 中龜ノ丁	創立年月日
名 感恩講兒童保育院	明治三十八年
稱 秋田縣陶育院	明治三十七年

大工町	宮本長吉	電話三二一番
茶町扇ノ丁	西村福藏	電話一三四番
横町	柳橋政五郎	電話三四一番
同	大島長助	電話七二番
大工町五八	竹傳治	電話四〇一番乙

秋田出獄人保護所 檜山下濱町 明治三十六年

●病院及醫師

明治十一年東根小屋町に市立秋病院を設立し、市内唯一の病院なりしか穂積孝春氏これを引受け經營して現在に至る、其他寺町に市立傳染病院あれども改築を要すべき状態にあり、目下保戸野鷹匠町に赤十字病院秋田支部建築中なり。

學士	五	齒科醫	三
ドクトル	二	藥劑師	一〇
醫師	十四	製藥者	一四
試驗免許	一三	藥種商	二五
從來開業	九	產婆	二〇
計	四三		
賣藥者	三一		

荒物杉箸
草履



上通町一三

石 黒 源 八
電略(〇イシ)

馬口勞町七七

松 倉 周 助
電話四四八番

川口新町

佐 藤 小 太 郎
電話二五一番

中通町

奈 良 右 左 衛 門
電話二二六番

同

加 賀 谷 與 治 衛
電話四〇二番乙

接骨醫 四 市養成看護婦 一二
鍼灸治 一三一

●商業會議所

明治四十年八月、辻兵吉、本間金之助、加賀谷長兵衛、佐野八五郎氏等之を提唱し、四十年十二月廿八日設立認許を受け、同年同月より其事務を開始せり、現在議員及役員左の如し

會頭	佐野 八五郎	副會頭	加賀谷 長兵衛
議員	工藤 長五郎	議員	村山 喜一郎
同	新田 小助	同	田中 太吉
同	野口 銀平	同	金子 爲吉
同	佐藤 右文衛門	同	村山 三之助
同	船木 久治	同	辻 兵吉
同	大嶋 勘六	同	佐藤 小太郎

菓 子 業

秋田路漬

川反二丁目 榮太樓
高 橋 長左衛門
電話四五番

翁糖本舗

川反五丁目 開運堂
加賀谷 家三郎
電話二二〇番

土手長町 榮太樓分店

高 橋 福 藏
電話三四四番

茶町梅ノ丁 千秋堂 振替口座東京
一九三〇七番

和洋菓子
商品委託商

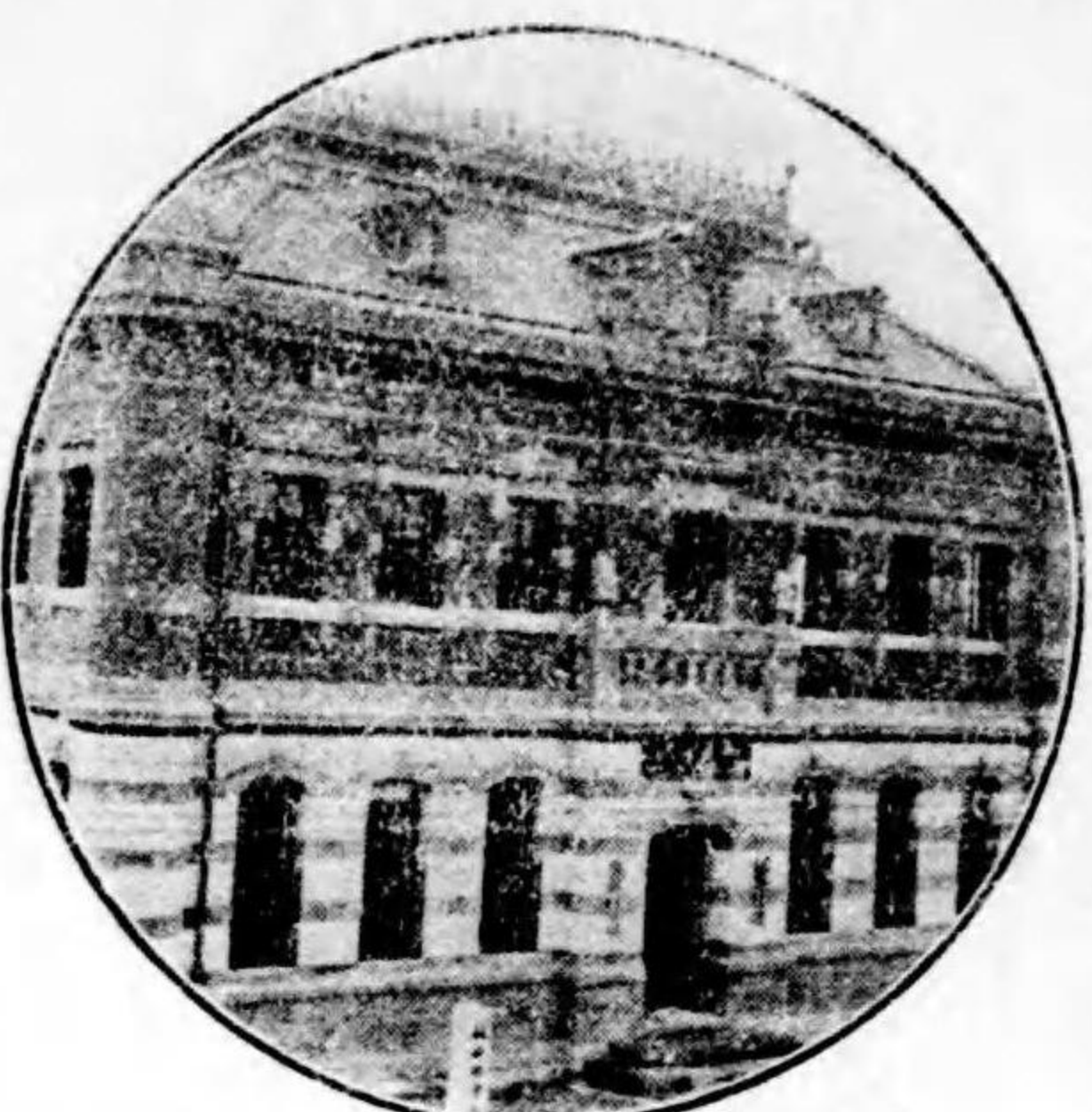


小 野 久 太 郎
電話三六九番

同	森澤善吉	常議員	青池定治
同	工藤泰造	同	小野鐵之助
同	佐藤利助	同	野口周次郎
同	三浦千代松	同	館山祐治
同	近江倉吉	同	刈田新次郎
同	山尾吉右衛門	同	竹内長九郎
同	大島長三郎	議員	蟹澤甚助
特別議員	檜崎潤造	同	中村重惇
同	飯山俊雄	特別議員	三好卷次
同	林駒之助	同	大久保鐵作

●銀行

明治十一年三月佐藤正忠、山中新十郎、土門却哉、佐竹義純、菅禮治氏等銀行業の必要を唱導して、国立銀行條例により資本金三十萬圓を以て第四十



八銀行を設立す、今の第四十八銀行の前身なり、

後同三十一年、上半期より菅禮治、高久景福、羽生氏、秋田、熟、鹽田團平氏等之を繼承して個人銀行となし後壹百萬圓に資本金を増加して現在に至る是れより先き第一銀行秋田支店か今の秋田銀行の地にありしか明治二十九年同支店廢止と共に秋田銀行設立さる、現在營業の銀行左の如し。

落眞砂漬小
豆落雁諸越



上通町 高砂堂

塚本幸三郎
電話四一六番

〔書籍店〕

大町三丁目 嘉多屋商店

書籍雜誌
食料品

大正堂書店
電話五六九番

大町二丁目

石川信助
電話二一九番

書籍理化
器械樂器

茶町菊ノ丁 振替口座東京九六八三番
成見清兵衛
電話一六七番

〔雜貨及小間物商〕

大町二丁目

本間金之助



土手長町 振替口座東京一三五二三番
電話二五五番
新田目小助

帽子一式
洋品雜貨



下肴町 振替口座東京一一一九七番
電話七七八番
大嶋勘六

廣小路 振替口座東京九〇九九番
木内隆一
電話六四番

行名	位	置	資本金	頭取
株式會社 秋田銀行	大町三丁目	壹百萬圓	辻	兵吉
同 四十八銀行	茶町菊ノ丁	全	本間金之助	
同 安田銀行	本町四丁目	壹千萬圓	安田善兵衛	
同 秋田農工銀行	大町三丁目	六十萬圓	成田直衛	
同 金城貯蓄銀行	本町四丁目	拾萬圓	安田善之助	
同 本所秋田代理店	本町五丁目	拾萬圓		

●信用組合

名	稱	事務所位置	理事長
有限責任	秋田共益信用組合	茶町梅ノ丁	佐藤文右衛門
無限責任	秋田敬貫信用組合	上米町一丁目	

●保險會社支店及代理店

西根小屋町	新田目	金太郎	電話六一八番
中通町	中村	長十郎	電話三三四番
和洋雜貨	諸官衙用達	田中	商會
卸商	長野	長右衛門	電話四四二番
馬口勞町一六	平澤	商會	電話七五番

名稱	位	置	代理店主
共同火災代理店	中通	町	佐野八五郎
萬歲生命代理店	大町一丁目		佐藤富吉
帝國生命	全		刈田新次郎
大阪火災	全		茶町梅ノ丁 河村周吉
仁壽生命	全		茶町梅ノ丁 那波伊四郎
內國生命	全		保野表鐵砲町 齋藤順之助
橫濱生命	全		馬喰勞町 平澤喜久治
有隣生命	全		上長町 佐藤利助
東京火災	全		本町四丁目 安田銀行
眞宗信徒生命	全		四十間堀川反 佐藤左吉
愛國生命	全		大工町 森澤善吉
千代田生命	全		築地下東町 湊鶴吉

被服雜貨	諸官衙用達	茶町菊ノ丁一	鎌田源左衛門	電話二二番
和洋雜貨	用品文房具類	大通町橋角	吉川商店	電話五二二番
柳行李	和洋雜貨	大町三丁目一八	傘 平野金太郎	
筆墨雜貨	全	佐々木	長四郎	
婦人用品	川反五丁目	金花堂	牧野岩次郎	電話一七一番

日本生命代理店	茶町梅ノ丁	河村 周吉
大同生命	大町三丁目	田中 太吉
國光生命	茶町菊ノ丁	鎌田源左工門
東海生命	大町二丁目	石川 信助
常盤生命	大町三丁目	鈴木 吉祐
神戸火災	大町一丁目	刈田 新次郎
紐育生命	土手長町	新田目 小助
全胞生命	茶町扇ノ丁	鈴木 善藏
博愛生命	大町一丁目	田口 松太郎
東邦火災	上長町	佐藤 利助
旭日生命	茶町菊ノ丁	小嶋彦右工門
明治生命	茶町梅ノ丁	大嶋 長三郎
明治火災	上通町	佐野 八五郎

和洋小問物
日用雜貨
上通町一四電畧(ヤ四)
山内 久左衛門
電話六一八番

秋田商會
土手長町
佐藤 喜一郎
電話二五六番

秋田名所
繪ハガキ
土手長町
加藤 茂治

洋酒雜貨
和洋雜貨卸
茶町扇ノ丁
振替口座東京八六三一
電話一〇番

洋服商

共濟生命	同	東土手龜ノ丁	内藤 俊平
橫濱火災	同	上通町	佐野 八五郎
日清生命	同	茶町扇ノ丁	西村 福藏
徵兵保險	同	茶町梅ノ丁	河村 周吉
蓬萊生命	同	川口新町	佐藤 小太郎
富士生命	同	追回町	市川 護幸
國光生命支店	店	上長町	支店長 法學士島田文之助
浪速火災代理店	店	土手長町	新田目 小助
大倉組 保險部代理店		大町三丁目	田中 太吉

商業

本市の商業區域は頗る狭少にして、僅かに市内及び附近の村落のみにして、本縣の商業中心は寧ろ横手か或は土崎港なるべし、これ本市には充分發

大町二丁目
辻洋服店
電話七七番

同
山崎 良兵工
電話二一七番

同
振替口座東京一五二四二番
風間 多吉
電話一二番

本町四丁目二
大森 松治
電話五五三番

土手長町
森川 金一郎
電話二二三番

達したる金融機關なきと生産物の見るべきものなきに因る、併して商人は頗る敏活を缺き、總て他縣人の蹂躪に任せて顧ざるが如し、殊に本市の資本家の大部は地主兼貸金業にして事業に對する知識なく従つて有利の事業あるも投資を省みざるもまた本市産業不振の一原因たるを免れず、最も商工業上必要缺くべからざる要素たる倉庫業の如きは一もなく物價の高きこと産業發展の程度にもなわさるか如し、故に近來數年間の甚たしき市況不振の結果初めて生活の困却を覺ゆ、市民稍々覺醒の傾あるもの、如く、産業發展策を講ずるは焦眉の急にあるを絶叫するものあれば頓て市の面目を一新するも近き將來にあるべし、市民今にし

〔教育用品販賣商〕

大町一丁目
成文堂教育用品共同販賣所
電話六〇一
市川護直

〔蔓細工〕

土手長町
日ノ出商會 石川銀藏

〔落摺製造業〕

て奮起活躍せずんば六親離散せざるべからざるの困厄に遭遇すべきは必然來るべき事實なるべし。十數年以前まで大町通は所謂目貫にして市の商業中心なりしか今は名實相反するの觀ありて、實質の充實せる点に至つては寧ろ茶町通りに推移せし感なき能はず、本町通り、檜山表町之に亞き、近時馬喰町繁盛を極めつゝあり。米穀市場は通町にありて日々市場を開き、午前十時頃最も盛なりとす、通町は野菜物、上、下肴町は毎朝魚市場開げ中々般盛を極む、其由來は年久しく昔も今も中々に勇まし。

市内商業者の組合は左の如し
名 稱 事務所 組合長

東根小屋町
祖元 秋田落摺本舗 宮越精之進

〔金銀細工所〕

川反二丁目 竹谷金之助
電話三二〇番

川反三丁目 澁谷金治
電話七四番

大町二丁目 佐藤福藏
電話五四〇番

秋田 吳服業組合	大町二丁目 辻 良之助
秋田 太物業組合	大町三丁目 田中 太吉
秋田 醬油醸造業組合	横 町 加賀谷 源左衛門
秋田 酒造業組合	檜山南新町 柿岡 源十郎
秋田 蠶糸業組合	上 通 町 佐野 八五郎
秋田 藥種業組合	川反二丁目 渡邊 喜七郎
秋田 染物業組合	茶町梅ノ丁 小野 鐵之助
秋田 菓子組合	大町三丁目 河村 爲吉
秋田 下駄業組合	檜山南新町 伊藤 源吉
秋田 質屋業組合	土手 長町 新田目 小助
秋田 小問業組合	表鐵 砲町 蟹澤 甚助
秋田 米穀業組合	茶町菊ノ丁 成見 清吉
秋田 綿商組合	大町二丁目 菅原 新藏
秋田 洋服業組合	

中長町	本堂 富之助
大町一丁目	竹谷 德之助
川反三丁目	山城 宗藏
本町六丁目	阿久津 豊治

〔指物業〕

電話二〇七番

秋田 清酒業組合	大町三丁目 櫻庭 鐵藏
秋田 五十集商組合	上 肴 町 鎌田 銀藏
秋田 織物業組合	大町一丁目 刈田 新次郎
秋田 宿屋業組合	上 肴 町 佐々木 惣吉
秋田 指物業組合	本町六丁目 味形 宇吉
秋田 古着業組合	上米町一丁目 小川 忠一郎
秋田 印刷業組合	田 中 町 渡邊 和吉

●工業

本市には企畫すべき事業多々ありと雖も悲哉信用厚く經驗に富み堅實なる企業家無く従つて工業等に於て何等の見るべきものなし、僅かに金銀細工、八丈織等あれども、單に名稱を存するに過ぎずといふべき程貧弱なるものなり、其産額は頗る少量に

同	味形 宇吉	電話四一五番
〔八丈畝織製織業〕	川反三丁目	那波三郎右工門
畝織八丈	檜山三枚橋	電話五番
畝織八丈	坂本	南右工門
八丈畝織	川反三丁目	妹尾 兼治
		電話三三六番

して生産者は時勢を洞察するの力なく、業務に不忠實を極め、更に改善するところなく、舊態を依然として保持し居るか故に縣外各地に於ける需要は年々減少しつつあり、今にして省る處なくんば頓て救済の道絶に施すべき術なきに至るは必然のことなるへし、而して一般本市の工業家と稱するものは凡て一時的利益に眩惑して永遠について慮るか如きことなく、かつそれに加へて本市には工業家の資金を潤澤ならしむべき問屋の如きはもなく従而工業家は製造と販賣とを兼ねざるべからざる状態にあり、これ工業家をして充分なる伎倆を振はし得ざる原因なるべし。

市内重なる製造工業場は左の如し

敵織八丈
富貴織

保戸野諏訪町

坂田 機業場
電話二四番

〔茶商〕

茶町梅ノ丁

那波 彌太郎
電話二一五番

茶町扇ノ丁

武田 幸吉
電話三三五番

〔木材及製材業〕

名	稱位	置	製造品	職工數
坂本	機業場	檜山三枚橋	八丈、畝織	七
佐多	機業場	中龜ノ丁	同	二〇
妹尾	機業場	川反三丁目	八丈、紋羽二重	三六
秋田	物織株式會社	保戸野諏訪町	八丈、畝織	六〇
秋田	木材株式會社	龜ノ丁外張新町	板類	七〇
進藤	精米會社	龜ノ丁虎ノ口	杉製材、精米	二五
秋田	長田精米所	龜丁外張新町	精米	六
三益	商會	大町一丁目	同	二
秋田	精米合資會社	中通町	同	二
船山	精米所	保戸野表諏訪町	同	二
丸米	精米所	上米町一丁目	同	二
丸信	精米所	同	同	三

龜ノ丁虎ノ口堀反新町

進藤 作之助
電話二〇八番

中川口町

齋藤 太助
電話一〇二番

同

鈴木 勘左工門
電話二六一番

〔醫料器械商〕

茶町扇ノ丁二〇 振替口座九七五

イワシヤ支店 三浦 畑四郎
電話五一八番

石井精麵工場	八日町	麵類	三
▲露 ネラ製造會社	馬口喰町	ラムネサイダ	四
秋田就業會	船大工町	洗濯、裁縫	七
本莊 物莊合資會社	手形谷地町	染物織物	六
秋津活版所	茶町梅ノ丁	印刷製本	五
大正活版所	西根小屋町	同	七
癸己活版所	大町一丁目	同	一
明治活版所	茶町菊ノ丁	同	〇
辻裁縫工場	大町二丁目	洋服裁縫	一
山崎裁縫工場	同	同	二
風問裁縫工場	大町三丁目	洋服裁縫	〇
根本 表製織傳習所	龜ノ丁西土	洋服裁縫	七
竹谷工場	川反二丁目	金銀細工	〇

〔鑄物業〕

鍛冶町川反
石川友吉

〔綿及染木綿製織業〕



手形谷地町 電路(ホン)
本莊染物合資會社
電話二一六番
保戸野諏訪町
米田作治
電話六〇一番

小嶋工場	茶町菊ノ丁	紡績糸網	五〇
澁谷工場	川反三丁目	同	〇五
人見工場	上鍛冶町	鐵器	一〇
石川鑄物工場	鍛冶町川反	鑄物	七〇
齊寅工場	鍛冶町	銅鐵工	五五
相澤鐵工場	廣小路	器械	一五
量器工場	茶町梅ノ丁	量器	二〇
山尾工場	茶町扇ノ丁	同	一五
藤田合名會社	中町	罐詰製造	五五
秋田酒造株式會社	本町五丁目	酒類	五五

●會社

製造工業以外營利を目的とするもの左の如し
類 種名 稱資本金 營業目的 所在地

〔青物商〕

上通町 高田鶴藏
同 瀬川勘助
同 電話四二三番
辻 惣吉
中通町 佐藤金治

株式會社	日東館	六、〇〇〇	觀工場	茶町梅ノ丁
同	秋田自動車會社	二〇、〇〇〇	運	輸田中町
同	秋田株式會社	二、〇〇〇	農	業新大工町
同	同軌道會社	二五、〇〇〇	運	輸同
同	内國通運秋	二五、〇〇〇	貨物運送	驛前
同	田支店	二五、〇〇〇	新聞販賣	大町一丁
同	秋田共同新	一〇、〇〇〇	電燈電力	上中城町
同	秋田氣會社	二五、〇〇〇	瓦斯供給	茶町菊ノ丁
同	秋田瓦斯會社	二五、〇〇〇	諸交渉其	茶町扇ノ丁
同	秋田信託會	六、〇〇〇	物品販賣	大町二丁目
同	辻吳服店	一〇、〇〇〇	製	綿上米町二丁目
株式會社	秋田製綿會社	二五、〇〇〇	物品販賣	上川口町
株式會社	齊藤合資會	三〇、〇〇〇	物品販賣	上川口町
合資會社	齋藤合資會	三〇、〇〇〇	物品販賣	上川口町

横町

齊藤長助

〔古着商〕

茶町菊ノ丁一六

鈴木喜右工門

電話一三番

大町三丁目一九

東京古着嫁衣裳

鈴木富吉

大工町

羅沙物洋服商 鈴木利三郎

同	相澤商店	五、〇〇〇	土木請負	東根小屋
同	長田商會	五、五〇〇	委託販賣	龜ノ丁外
同	秋田製會社	八、〇〇〇	製	飴虎ノ口新
同	風間吳服店	二五、〇〇〇	物品販賣	大町二丁目
同	秋田官煙元	二四、〇〇〇	煙草元賣	大町二丁目
同	平澤商店	五、〇〇〇	物品販賣	馬喰町
同	いろは合名會社	五、〇〇〇	獸肉販賣	東根小屋

●重要物産

○秋田路摺 秋田路の名は古來より其名人口を喰
 炙す、これを利用して秋田特産畝織及キヤリコ等
 のハンケチに摺り込み、また襖紙等にも摺り附せ
 しものあり、市内各所にて販賣す、製造所の重な

上通町

羅沙物 中村季橘

馬口勞町

橋本慶助

上龜ノ丁

田中久吉

〔履物商〕

川反一丁目

藤井官藏

電話四一四番乙

るものは、東根小屋町宮越精之進とす。

○秋田落漬 落の莖幹を砂糖漬にしたるものにして風味佳良なり、重なる製造所は川反二丁目榮太樓及び開連堂とす。

○金銀細工 秋田銀は其産額の多きか爲めのみならず品質の優良なるか故に海内に其名囂し、技術も近來著しく進歩して縣外各地よりの注文日々に増加の好況にあり、重なる市内金銀細工所は
竹谷商店 川反二丁目 澁谷商店 川反三丁目
同 支店 大町一丁目 佐福商店 大町二丁目
本堂商店 中長町

○鑄物 銅鐵共にあり、殊に鐵瓶は京釜風にして需要多く市内重なる鑄物業者は鍛冶町川反石川友

大町三丁目

多可幸助

流行魁空氣草履ゴ同

マ雪駄履物各種ツ同
まかわ製造卸小賣商

河村爲治

牛島橋通町

加賀谷常吉

電話六〇三番

〔染色業〕

川反二丁目

工藤幸吉

吉氏なり。

○織物 秋田畝織は天明年中これを織出せしものにして八丈縞は文政年間の工夫に成り、近年秋田織物株式會社にて富貴織を製織せり、重なる機業場は

秋田織物株式會社は保戸野諏訪町にあり畝織、八丈縞及富貴織を製出す、川反三丁目那波商店にては白、紋羽二重、共に織出し好評あり、妹尾、佐多兩機業場は八丈縞を重に織出す。

○木通細工 近年各地に於ける需要頓に増加したりと雖も製造力少なきか故に供給額は需要額の半額にも達せざる有様にして前途有望の産物なり、縣廳協日の出商店の獨專の姿なり、

手形谷地町



本莊染物合資會社

社員 新田房吉

電話二一六番

川反二丁目

加藤喜兵工

同

渡邊喜七郎

電話七三番

〔金物商〕

○秋田焼 陶器にして茶味あり、使用するに随つて茶澁出て黒色を呈す、優佳愛玩すべく、前途囑望に値する特産なり、表鐵砲町金子和吉氏これを製出す。

○南部表 本場を凌駕する優良品を製出するを以て名あり、價値また頗る廉なり、

檜山醫王院前町御法川隼男、表鐵砲町齋藤順之助の二商店は右製産者の重なるものなり。

綠滴る若葉の陰に

鳴く音長閑な杜鵑

亞鈴子

●人情

市人は萬事に消極的なり、性冗長柔懦、頑鈍、活動の精神乏しく敏活を缺き、遊隨放逸にして一般

上鍛冶町

帶谷 市左工門

電話二六四番

上鍛冶町

鎧谷 友吉

電話五三〇番

下鍛冶町

川村 久吉

停車場前

相澤 重吉

電話五一四番

〔海産業〕

に人氣浮薄なり、一見磊落にして懇切の如くなるも、内心は嫉妬、猜疑の念深く爲めに一致の行動執り難く、虚榮心また頗る強し、評して秋田人は淳朴にして氣象雄健なりと謂ふものあるも然らざるなり京阪地方の人に比してのとなるべく思はる、特長はとつつかのよきとなり、これか故に外來居住の者曰く、此の地に來住せし一兩年は秋田よりよきところなきか如く思はる、然れども年を重ねるにしたかつて此感また薄ぐと、蓋し適評なり。

●風俗

一般に奢侈なり、富の程度に比較して生活程度は數等の上にあるなり、秋田人は着倒れなり、食倒れなり、流行を趁ふこと烈しく、最も質朴なるべ

上通町

川口 傳助

上肴町

鎌田 銀藏

電話五六一番

下肴町

宮腰 銀治

〔鮮魚問屋〕

上肴町

藤林 太吉

電話二二一番

き學生にまで此の氣質感染し居りて其風俗京地の
それに比して遜色なきか如し、著者京地に在るこ
と多年、秋田より留學の學生をみるに其風俗の華
備なる点は際立つてみわたりき、殊に當地婦人の
風俗は最も華美を好み、遊安を貪るに躊躇せず。

●風景

既に名勝舊蹟の項に於て盡したりして云へば山紫水明の光明媚の樂に大平の翠峯を負ひ、前は雄大なる日本海にのみ、雄物の清流を扣ふ、春は千秋園、八橋公園の



蹟の項に於秋と雖も概括田秋田は所謂雪ノ地なり、風園なり、背

加賀龜商店 冬 同 電略(カメ)又ハ(カ) 加賀谷龜吉 電話四六九番

岡崎 永吉 電話四〇五番

〔獸肉販賣商〕

東根小屋町 阿部佐三郎 電話二〇五番

上肴町 三友社 電話五三五番

燎爛たる櫻花あるあり、夏は新川長橋、泉の冷泉等納涼螢狩に適好なり、秋は近山に眞紅に燃ゆる紅葉狩をすべく、仁別の栗拾ひ、新屋濱の茸狩の清遊をほしいまゝにすべし。

●名勝舊蹟

〔千秋園〕 縣公園にして舊城跡なり、關東北第一の名園の稱あり、規模雄大にして山海の眺望佳絶を極めて眞に壯絶なり、境内花卉多く春季紅雲を漲らし櫻花の名所としてあらはる、瀛車の割引等ありて遠近より觀櫻に来るもの多し



八橋公園

鳥肉鶏卵 上通町 小松堅藏 電話二五三番

〔米穀商〕

城町 横田勇助 電話三四八番

保戸野表鐵砲町 蟹澤甚助 電話三三九番

大工町 小島善助 電話三二三番

〔八橋公園〕 市公園にして秋田市と暇一本を隔てたる八橋村にあり、境内廣濶にして老樹長幹空隙を覆ひ、陰森清肅の氣あり、櫻花の名所なり。

〔佐竹別墅〕 上中城にあり遠く太平の秀峯を望み近く田圃の間には嶋の如き野崎村を臨み、眞に絶景の地を占む。

〔加藤景林之墓〕 舊藩時代木山方として殖林防砂の法を講じ藩の林制を整頓す、經世家、學者、詩人として名あり。

〔吉川忠行父子之墓〕 聲体寺にあり、明治維新の志士にして明治四十一年父子共に正四位を追贈せらる。

〔栗田加茂之墓〕 勝平に辛苦殖林し秋田以東風砂

牛島橋通

信太三之助

電話五三八番

由利特産
目方炭



柳町
杉山豊治

〔薪炭商〕

川反上鍛冶町

秋田薪炭合資會社

電話二五九番

同

帶谷文平

電話三一五番



の害を際く、林産の利を開きし人なり。
〔北楊之墓〕 杉山本念寺にあり、長雄院と稱して元祿の頃の修験なり、城下寺町に住す、〔雄鹿百咏〕世に行まる。

〔平田篤胤之奥墓〕 手形山にあり世の偉人として

事歴諸書に詳しきを以て贅せず

〔寶篋印塔〕 妙見堂内にあり、

平石造にして長さ二丈五尺、文政田十三年の建立なり、草萊中に委篤棄せられつゝあるが、昔時は蛇胤之の棲家なりとし至り見るもの稀墓なりといふ。

〔幽賞亭〕 赤沼にあり、山林の

東根小屋町

蓼沼銀治郎

電話二五五番

〔鐵工所〕

停車場前

相澤重吉

電話一四三番

龜ノ丁西土手町

河原田政治

〔印刷所〕

に中あり幽邃にして塵氣を絶せり、縁樹の杜鵑、紅葉の幽禽聴くに値す。

〔人見焦雨之墓〕 寺町善長寺にあり、博覽強記にして著書頗る多し「黒詰瑠語」最も著はる。

〔旭川〕 市の中央を貫流するものにして雄物川に注ぐ佐竹家遷後の堀割にして長堤の古松は百年の太平を吟じ櫻樹多く、花時韻光を添へ、また水清澄にして魚兒數ふべく、河岸垂柳は水に戯れ青樓の絃歌は流聲と和し、夏時納涼によし。

〔古刑場〕 檜山登町の追廻町との間にあり、小橋なり、地獄橋と今も呼ぶ。

〔富士山〕 檜山にあり、小岳にして香奇館といふ香奇某の居館たり、太平川に類して景色頗るよし

製活本版 茶町梅ノ丁 秋津活版所 電話二一番

製活本版 西根小屋町 大正活版所

活版 土手長町 秋田社

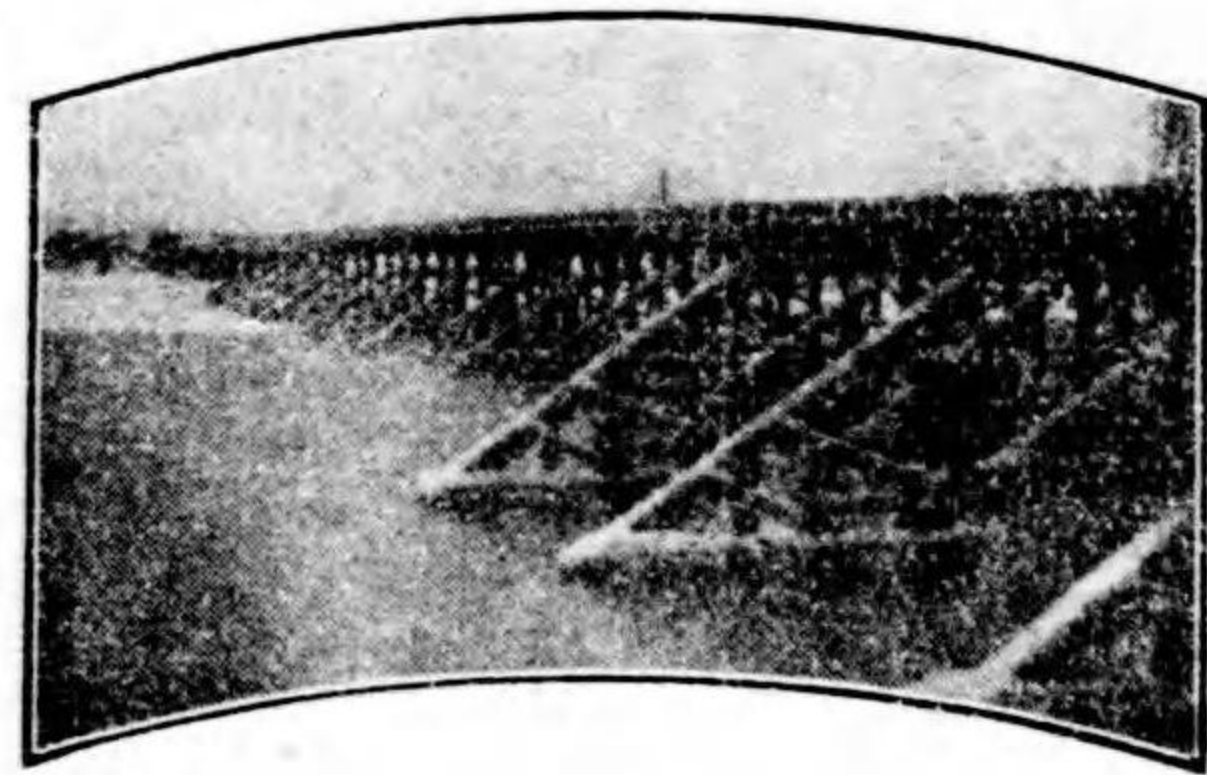
活版 茶町菊ノ丁 明治活版所 電話一〇八番

石版 大町二丁目 佐々木彩雲堂 電話四一〇番

〔金照寺山〕 檜山にあり、野趣山情に富み、四方の眺望無比にして山上七つ森と稱するは古墳なりか如し、對山の一つ森と共に義經旗下八人の墳墓なりといふも俗説信じ難し。

〔新川橋〕 雄物川に架せる二百七十間の長橋にして眺望四瀧雄平仙三郡の諸山に及び、近く勝平山の白砂青松を臨み夏夕の納涼、秋晴の河原遊びを以て市人の樂遊地とする所なり。

〔猫婆之墓〕 天徳寺にあり、小説的話譚あれども事實にあ



新川橋

石版 下長町 平塚熊吉 電話五二九番

茶町扇ノ丁 長食源藏

大工町 鈴木印刷所 電話四五三番

〔貸金貸家業〕

貸金家 上長町四 關福藏 電話三五九番

らず、佐竹義處側室谷氏の墓なりと謂ふ。

〔如斯亭〕 唐見殿といふ、旭川村にあり、佐竹家の別墅にして初夏の躑躅を以て名あり。

〔観音の湯〕 泉村にあり、眺望絶に佳して遊覽浴客多し。

〔不動の湯〕 泉村五庵山下にあり、浴客常に麁集す。

〔石田三成之墓〕 八橋歸命寺にあり、三成の墓と稱すれども非なり、木食上人の墳墓なりといふか信にちかきか如し。

〔面影橋〕 八橋草生津川に架せる小橋なり、西岸は古き刑場にして姉妃のた百も此の地に於て刑せられしといふも狂言綺語なり。

本町四丁目二八

平野 三郎兵工 電話一一七番

大町一丁目一八 平野 政吉 電話二六九番

檜山笹町四五 花巻 安吉 電話二六六番

保戸野表諏訪町下丁一五 奈良 右左工門 電話二二六番

上長町九 佐藤 利助 電話二二七番

貸貸 金家

貸貸 金家

檜山本新町二六

江畑 省三 電話二五〇番

〔肥料商〕

冬 大町二丁目一 替口座東京二八二〇番 電話二二八番

〔度量衡商〕

大町一丁目 振替口座東京二八二〇番 電話二二八番

佐藤 富吉

電話二二八番

〔仙臺殉難碑〕

寺内村にあり、戊辰の際秋田に於

て大村益次郎を暗殺せし一人なりとの説あれども眞疑判じ難し。

の磅礴せるに似たり。

〔金輪五郎の墓〕 全良寺にあり、戊辰の志士にし

て大村益次郎を暗殺せし一人なりとの説あれども眞疑判じ難し。

〔乞食權三之墓〕 八橋寶塔寺にあり、寛政の頃の者なり、至孝にして俳句を能くす。

上り下り七面堂の櫻かな 權三

〔官修墳墓〕 八橋全良寺にあり、戊辰役に戦死せ

し薩長土肥初め各藩及本藩戦死者總督府參謀世良修藏以下二百數十名の遺骸を埋葬せし處にして洒

掃到り盡して清浄なる墳墓の間に櫻樹數百株栽植せられ、花時燎爛として紅雲變黓し恰も忠魂義魂

て殺戮せられし伊達家の使者志茂又左工門以下を葬りし處なり。

〔菅江眞澄之墓〕 寺内村にあり、三河の人にして秋田に來住す、博覽強記和歌を好くし、地理歴史に詳し、眞澄遊覽記八十餘卷の大著述あり。

〔出羽棚〕 (國府)なり、續日本紀に依れば和銅二年出羽郡(今の羽前田川郡)に置かれしを天平五年秋田村高清水に遷せり、即ち府治の出でし處にして神明山(後久保田城今の千秋公園)の總社も之に附屬せるものなるべし。

●神社

〔古四王神社〕 (國幣小社) 寺内村にあり、千九百九十餘年前崇神天皇の時大彦の命越しの國(出

茶町梅ノ丁二二 振替口座東京(五九二二) 電話(スセ)
本はりや 店 榮 鈴木清太郎 電話二六八番

檜山牛島橋通町

渡邊 キヌ 電話四一一番

土手長町

佐藤 喜一郎 電話三五六番

〔洋酒罐詰〕

大町一丁目

振替口座東京二八二〇番 電話(サトミ)又ハ(トミ) 佐藤 富吉 電話二二八番

羽をも含有す)を追撫せる時、武甕神を祭り、齋明大皇の時阿部比羅夫來りて蝦夷を征し、其祖大彦命を合祀す、古越しの王又高泉の明神、高清水の宮とも稱せり、桓武天皇の時坂上田村麿は武停河別命、吉備津彦命、丹波道主命を合祭し、爾後興廢常なく、且つ中頃四天王寺中に四天王堂として別祀せられ、又四天王寺の趾を承けし東門院に兩部として合同せられ古四王大權現と稱せしも明治初年より獨立せり、土地高爽、四顧開豁にして遙かに男鹿島を雲烟の間に望むべく、境内老杉古松多く、田村神社あり、將軍の像及び其用ひし矢の根を祭る

〔日吉神社〕 (縣社) 八橋村にあり、秋田市外町

大町二丁目二〇

刈田 寅吉 電話三四五番

田中町四五

藤田 千代吉 電話三〇二番

馬口勞町八一

伊藤 東吉 電話二七〇番

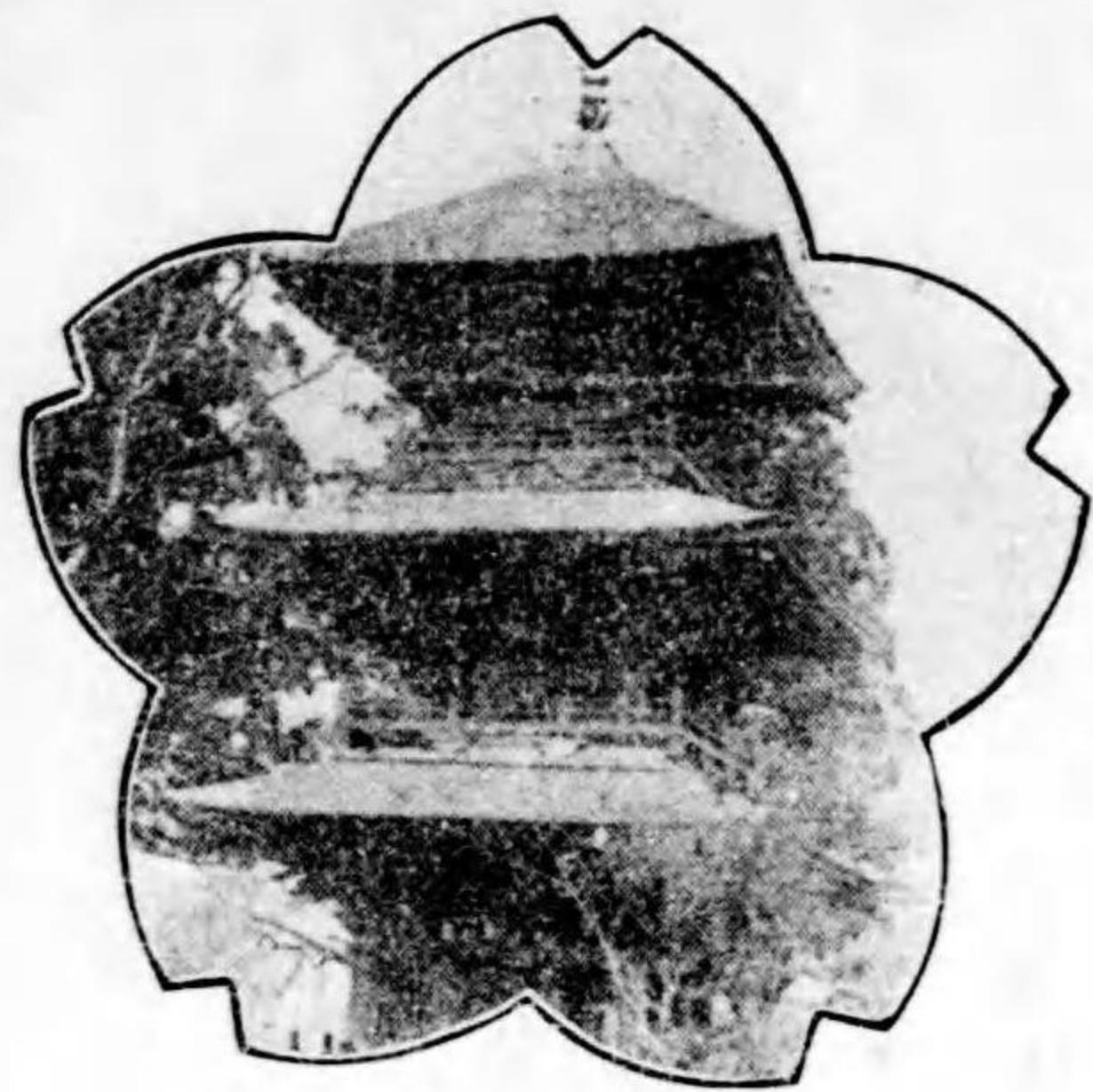
保戸野表諏訪町

伊藤 末藏 電話五五七番

上通町七

刈田 支店 電話一四五番

金時酒店



を覺ゆ。

〔總社神社〕（縣社） 川尻村の項に詳し。

〔三吉山神社〕（縣社） 世に荒神と稱す、神話的譚説あるも史上實在の人物なり、即ち元龜、天正の

の鎮守にして元新城村字笹岡にあり日しも慶長年間今の地に移せり、祭神は大山咋命、譽田神別命の二神なり、境内廣大にして古樹老木多く森閑として清肅の氣迫る

〔質物商〕

上川口町一〇

加賀谷 長兵衛

電話五〇番

上肴町二六

加賀谷 富太郎

電話三〇九番

川反三丁目一

那波 三郎右工門

電話五番

茶町菊ノ丁一三

中村 善兵衛

電話三三七番

頃太平城主永井左近か大臣黒澤の館主嵯峨尾張守と謀り、日長崎城主鶴壽丸藤原三吉を改め三吉敗れて三本嶽に逃れ生死不明なり、其後種々の怪異ありしを以て神に祭り、太平山神社に合祀す。

〔太平山神社〕（縣社） 太平山は本縣中央の高山にして南秋田郡、河邊郡に跨り三本嶽と稱し又たろち山と云ふ、佐竹義宜之を太平山と改む、秋田市より山麓まで三里餘有り。夏時登山するもの多し、天武天皇白鳳二年役の小角の草創にして延歴中田村磨之を中興し太平山神社と稱す大名命、小名彦命を合祀す、前岳奥嶺に瀑布あり頗る美觀なり。

〔三吉神社〕（縣社） 舊藩雪見御殿跡にして或時

馬口勞町五八

村山 三之助

電話五三番

横町一五

村山 兵藏

電話四五一番

下龜ノ丁四二

野口 辰造

電話六〇八番

船大工町一〇

猿谷 利左衛門

電話五二〇番

大工町一〇

森澤 善吉

電話一一五番

藩公此の亭に於て酒杯を舉げしに太平山の翠微倒礁す、是より飲遊亭と稱す、後太平山の遙拜殿となり相撲、俳優、藝人之に參拜せされは必敗すと境内幽靜眺望佳絶瓢酒を携へ來遊するもの多し。



(八幡神社) (縣社) 千秋公園に在り、舊藩時代

〔彌高神社〕(縣社) 東根小彌屋町にあり、平田篤胤、佐藤高信淵の二大人を祭る。

〔秋田神社〕(縣社) 千秋公園に在り、明治十一年藩祖奉恩の爲め建立せしものにして佐竹義宣大坂役着用の鎧を神靈となす。

硝子器商

茶町扇ノ丁一五

山下 又 太郎

電話一六〇番

大町二丁目二〇 刈田 寅 治

電話三四五番

貨物運送

停車場前

内國通運株式會社秋田支店

電話五六番

後八幡山にありしを一旦東根小屋町に移し更に神社合併令に依り明治四十一年秋田神社に合祀せり神体佐竹義仁か鶴ヶ岡の神影を寫せしものなり。

〔招魂社〕(縣社) 千秋公園内にあり、明治元年戊辰役戦死者の忠魂を祭らんか爲め寺内村五輪山に建立せしものにして公園開始と共に遷座せられ十年役、二十七八年役、北清事變、三十七八年役の戦死者をも合祀せり。

〔與治郎稻荷神社〕(村社) 千秋公園内にあり、小説的傳説あり信仰家頗る多し。

〔金砂神社〕(村社) 保野戸金砂町にあり、祭神咋命、大物主命の二神なり、常州金砂山より移せり、佐竹氏常州にありし時の居城の地なり。



同 三 船 立 社 木 清 吉 電話一六一番

官煙元賣捌業

大町一丁目 振替口座東京二八二〇番 電話(サトミ)又ハ(トミ) 佐藤 富 吉 電話二二八番

官鹽元賣捌業

茶町菊ノ丁 那 波 喜 助 電話七九番

〔曙櫻神社〕 (村社) 金砂神社拜殿にして五稜の



宮と稱す、佐竹家十三世の祖義工宣の姫女諸道に通せしも容貌醜業かりしに金砂神社に參詣の途次學手洗鉢に其姿を映し發狂して井校中に投して死せり、年二十、父太田郷に一寺を建て、祭り後神名とせり佐竹家遷封と共に今の地に移す、女の守本尊なりと謂ふ。

〔諏訪神社〕 (村社) 保戸野諏訪町に在り、佐竹家祈願所の一社なり、維新前祭日に藩の厩より備馬を出し徒士三十人を附し神靈を迎ふ古例ありしと謂ふ。

〔鐵葉業〕

大町一丁目一五

山郷 恒吉

電話四四七番

本町四丁目二二

大和 熊吉

電話六一〇番

〔玩具商〕

土手長町中丁

近江屋 正之助

美術教育玩具

〔勝平神社〕 (鰐田の浦の神) 保戸野鑛砲町にあり、祭神武甕槌神俗稱毘沙門堂なり、往古勝平山にありし古社にして田村將軍の創立に係り源の賴義之を再建す、後種々の遷遷を経て明治二十年九月今の地に移す。

〔瓊宮神社〕 (村社) 川尻村にあり、香櫻山と號す、文徳天皇仁壽二年左近衛中將某の二男原峯世諸國を遊歴し天安二年六月此地に留り、一社を勸請し、天御中主命外九柱を祭れり(附近蜂世の墓あり) 永安六年安東家臣箱岡城主小笠原右馬助の鎮守となり慶長年中佐竹義宣箱岡城を破却し田代氏に與へ氏神となさしむ、大道館、春秋殿等あり月郷雲客の詠進和歌あり維新前男女の參詣者多く

〔足袋製造業〕

大町三丁目橋通

かめや

縣廳前橋通

阿部長兵工

田中町

鹿兒島 金太郎

本町五丁目

つるや

祭日には死傷者を出せし程なりしと。

〔菅原神社〕 (村社) 八橋村にあり、初め総社明

神内にあり萬治二年箱岡にありしを屢々移轉し延享年間今の地に遷せり、祭神は菅原道真にして神体は後宇多天皇震筆なり。

●佛閣



〔淨願寺〕 寺町にあり、彌高山と稱し眞宗にして開基は菊地武

弘蓮上人の得度を得弘賢と稱し越後吉崎に一寺を建立せしを轉々して此の地に移れり、境内に力士雷電小野卷の墓あり。

〔當福寺〕 寺町にあり、安榮山と號し淨土宗なり

〔自轉車商〕



下肴町四四電略(オケ又ハ(オ)

大 島 勘 六

電話七八番

下龜ノ丁二丁目小路

遠藤自轉車店

土手長町中丁双輪商會

佐々木定治

〔印版彫刻業〕

上肴町

御印章彫刻 廣明堂 近 江 金 治

ゴム印製造 附屬品一式

茶町扇ノ丁一九

御印章彫刻 東陽堂 長 谷 川 久 吉

ゴム印製造 附屬品一式

振替口座(九八六一)

土手長町

菊 川 耕 石

〔麵類製造業〕

八日町

石 井 忠 龜

永享、嘉吉の頃出戸村に在り、文明中飯島に移す此の頃のことなるが漁夫海上に龍灯を見て網を下せしに一尺餘の正觀音を得て寺に納む、又出戸にありし頃鎮守として北野天神を祭る、故に其神體の石像は當寺に秘藏せり。

〔光明寺〕 寺町にあり、二七堂、釋迦堂覆曇と號し北條時頼の愛妾唐糸を失ひし二七日に建立す、辨財天女像及唐織の袈裟を什物とす。

〔西勝寺〕 寺町に在り、法雲山と號し眞宗にして天文年中淨圓の開基なり、什物として善光寺如來分身像、後水尾天皇御製、御奈良天皇御書賛、光格天皇製古鏡、御劔等あり。

〔本誓寺〕 當智山と號し眞宗なり、開基菊地次郎

武信弘蓮延徳二年加賀より土崎に來り一字を建立す、元和二年今の處に移る什物蓮如上人自作木像御陽成天皇御筆等なり。

〔善長寺〕 養根西光院と號し淨土宗なり、開基は平將門六男東の六郎後胤千葉六郎聲譽上人當時建保承久年號の位牌ありしといふ、初め善仲寺と稱し境内今の大悲寺に及ぶ「カツキ沼の善仲寺」又は畠中の善仲寺と稱す、後善長寺と改む、雲慶作彌陀、専心作「思ひ出の觀音」等あり。

〔誓願寺〕 寺町にあり、正覺山如幻院と號し淨土宗なり、開山覺蓮社良政問上人什物として雲慶作彌陀本尊、慈覺作脫衣姿（小野小町百歳の姿なりといふ）琢磨法眼筆彌陀如來等あり、門前は誓願

〔陶器製造業〕

保戸野表鐵砲町

金子 和 吉

電話六七二番

〔草履製造業〕

保戸野表鐵砲町

齊藤 順之助

同

金子 和 吉

電話六七二番

門前と稱し貧民窟なり、

〔玄心寺〕 追回町にあり 開基佐竹養長、文化中五瓢なる僧あり俳句を好くす。

けふ亦こちら向ひたる案山子哉 五瓢

〔闍信寺〕 蛇野にあり、大澤山と號し曹洞宗なり天徳寺の末寺にして佐竹義重を開基とす。

〔本念寺〕 赤沼にあり、修行山と號し淨土宗なり元和二年の建立にして開基は良善上人なり。

〔白馬寺〕 手形にあり、經王山と號し東左近太夫將監佐竹政義天正元年に建立し慶長十一年佐竹義賢此の地に再興し世々東家の菩提寺なり。

〔金照寺〕 檜山愛宕町にあり、眞言宗にして泉の泉福寺、川尻の松慶寺と共に三堅固山と號し寺名

〔コールター販賣〕

保戸野表鐵砲町

金子 和 吉

電話六七二番

〔牛乳商〕

廣山田村蛇野

和田 明 世

電話四二六番

西根小屋町

阿部 佐三郎

電話二〇五番

か寺の名となりし程の名寺なり。

〔一乗院〕 川尻村にあり、吉甲山と號し眞言宗にして元龜二年海義法印の開基なり、元錄中田中町寺町の間にあり、明和中北の丸に移し明治初年今の地たる東光寺趾に遷れり、第三代宥増は社務法印と稱し名僧にして、又中興義重も亦名僧なり、妙澤筆の不動尊、雲慶作猫突不動尊木像を以て名あり、同寺は幽靜にして田塍を隔て、遠く太平の秀嶺を望み眺望頗る佳絶にして詩歌俳の雅筵を開くに適す。

〔松慶寺〕 堅固山と號する眞言宗にして俗に十六羅漢と謂ふ、境内に小田野羽陽、萩津獨元齋と共に油繪を書きし田代雲夢(天明中の人)及秋田藩の

〔公債株式賣買仲買〕

下龜ノ丁四二

野口辰造 電話六〇八番

保戸野本町四

澁谷長治 電話二〇二番

中龜ノ丁末丁二

湯瀬哲太郎 電話一四一番

大町一丁目

丸中商店 電話三五六番



蠶糸業を興起せしめし金易右衛門、同大之進父子の墳墓あり。

〔天徳寺〕 萬固山と號し曹洞宗なり、佐竹家の菩提所たるのみならず當地唯一の靈地なり、初め常州にありしを遷封の當時檜山に移し寛永元年泉村に遷す、元は本堂、書院、庫裡、山門、總門、靈廟開山堂、鎮守堂等ありし大伽藍なりしも、維新後大に頽廢し今は僅かに本堂、山門、庫裡、廟所等有するに過ぎず、夫すら見る影もなかりしを三神秀芳師半生身命を捧けて苦心慘愴之を經營し維持の方法を立て他人の手に渡りし什物等を買戻し末寺闡信寺等をも再興し今の面目を存せるは全く其功績なり、什物に弘法大師作天女像、兆殿司筆十六

〔土木建築受負業〕

中川口二四

佐々木文藏 電話六一九番

西根小屋町中丁一〇

相澤重吉 電話一四三番

上鍛冶町六四

中島傳右工門 電話二六三番

龜ノ丁東土手町二九

栗原源造 電話五四番

羅漢の幅、光明皇后御筆紺紙金泥の法華經八軸等あり、毎年舊曆七月十六日風入の際衆庶縦覧を許す、山後に陸軍墓地あり。

〔宜祥寺〕 泉村にあり。妙授庵ともいふ、藩士梅田某一女と結婚し當夜急死せり、一女剃髪して此庵を守りしを以て名あり庵内、丈餘の觀世音を本尊とす、秋田十景の内「泉川清流」とは此庵よりの眺望にして杖を曳くもの多し。

妙授庵

釋義堂

尼公何世化婦媿。妙授庵前夜月過。雲盡星稀秋一色。凄涼清影滿天涯。

〔補陀寺〕 松原にあり、龜像山と號し曹洞宗なり正平年間秋田守季の開基にして四百年前同家の寄附せし梵鐘あり、初め北秋田郡に在りしを今の地

〔造花材料商〕

和洋雜貨
學校用品

東根小屋町

木内三色堂

〔瓦煉瓦土管製造〕

檜山愛宕下

渡邊定吉

〔靴製造業〕

花立町三七

八代 仁左工門

電話三四七番

同

三澤 精造

同

山崎 兼吉

〔ミルク製造業〕

鍛冶町

米田常次郎

大和ミルク

に移せり、開山は月泉和尚にして越後正續寺より入り伴ひ來りし良雄和尚を以て二世となす、是れ即ち藤原藤房郷なり、良雄後に藤倉に西來院を建て、閑居せり、墳は東南の丘上に在り、什物として繪旨外種々ありしも大分紛失し現存せるもの良雄所有の七條袈裟、淀君筆和歌、良雄筆碧巖錄、同笈等あり、文化の頃徳善和尚文學を以て名あり。〔普門寺〕 八橋村にあり、金輪山平等院と號し眞言宗なり、本尊は日本三弘法の一にして大師か四十二歳の時厄除けの爲め三体の首を刻して海に投せり、一は難波の濱につき天王寺に納まり、一は鎌倉の海に漂著し有名なる川崎の大師の本尊となり、一は秋田の浦（今の笹岡にて其當時は入海

なりき)に著きしを祭りしに後一僧來てり體軀を彫刻して全身を全ふし瓢然として何れへか去れり厄除けの弘法大師と稱し崇敬者頗る多し。

達摩曰。繁臚結。

繁臚結

茶町菊ノ丁

耕石山人戯刻

〔月桂寺〕 臨濟宗にして八橋村にあり、天草生津刑場にありし青銅佛及丈三尺餘の石地藏あり、御

〔古 本 商〕

大町三丁目

布川新三郎

茶町菊ノ丁

松阪商店

〔下駄製造業〕

石川傳藏

物川より拾ひ上げしものにて勝平寺の遺物ならんと謂ふ、昔一疊職あり、殿中に於て針を失し士人の體を傷けしを以て重罪に科せられんとせり、職頭之を地藏尊に祈りて験あり遂に赦さる、故を以て「身代りの地藏尊」と稱し同職の崇敬篤し。

〔寶塔寺〕 八橋面影橋の前面の小邱に在り、塚原山と號す、日蓮宗にして昔は御塚堂といへり。

〔全良寺〕 寺内村寶塔寺の隣地に在り、大智山と號し臨濟宗なり、開山は新州良和尚、開基は澁江隆光にして元大龍寺と稱せり、明治十九年地魚の殃に遭ひ目下忠魂堂を再築中なり。

〔西來院〕 五百羅漢と謂ふ、小林山と號し曹洞宗なり、元藤倉に在りし良雄和尚の閑居寺なりしか

廢絶せしを寛政年中佐竹義和此地に再興せしめたるなり、境内廣く今の油田阪上は門前なりしも明治初年誤つて官地に編入せられ今は僅かに猫額の地を有するのみ。

〔四天王寺〕 寺内村にあり國分寺なり、推古天皇時代に建立せられし事東門院縁起に詳し。

此の外稍々名あるもの左の如し

〔壽量院〕 八橋にあり徳川家康の靈廟にしてもと天徳寺内にありしものなり。

〔歸命寺〕 念來山と稱し天臺宗にして木食上人の開山なり。

〔蓮入院〕 俗に清心坊といふ、門前に大公孫樹あり、又是山作地藏尊を有す

〔寶鏡院〕 蛇野にあり、如意山と號し眞言宗にして佐竹義人の開基にして慶長の封と共に當地に移さる、佐竹家の祈願處たり。

〔久城寺〕 顯榮山と號し日蓮宗なり、永正年中日有上人の開基なり。

〔專念寺〕 佛光山と號し眞宗にして文祿四年菊地武宗祐了の開基なり

●教會

教會名	位	置	牧師名
秋田基督教會	本町四丁目	津田	練四郎
ハリストス正教會	中龜ノ丁	後藤	藤某
天主公教會	古川堀反町	佛國	人
日本基督教會	廣小路	土田	熊治
日本ソングスト教會	榎山本新町	坂本	金也

秋田聖救主教會 保戸野愛宕町 山本 三次郎
 同仁基督教會 保戸野本町 水平 三治
 金光秋田小教會所 中龜ノ丁
 神道天理教會秋田出張所 榎山新屋敷
 庭前の花紅に秋近し 啞鈴子

●劇場寄席

○凱旋座 柳町にあり、株式組織にして東北有数の劇場なり、建築壯麗を極め、新舊大名題を以て屢々開せり。

○秋田座 寺町にあり、個人經營にして建築瀟洒凱旋座に亞ぐ、

○娛樂館 川反五丁目にあり、浪花節を以て名あり。

●集會所

○富貴見樓 田中町にあり、貸席にして夏時花菖蒲園を開き園中紫白競ひあやめ團子を賣出し市人遊ぶもの多し。

○旭東俱樂部 廣小路紀念道路にあり、瀟洒たる洋館にして球戯場の設けあり。

●勸工場

○茶町勸商場 日東館の經營するものにして般賑なること宛然淺草の仲店の如き三丁目小路の要路にあり。

○長町賣店 日東館の直營するところにして顧客を以て常に雜沓を極む。

○博品館 廣小路にあり、重に秋田の産物を販賣するところなり。

●旅館

小林、石橋を第一となし、藤本、高西、竹小等之に亞き他は甲乙を論すべからず。

○石橋旅館 (池永小路) 客室の瀟洒にして廣大の庭園を有し閑靜にして各所に便益なる地にあり女中に美なる者多きを以て評判高し。

○小林旅館 (土手長町) 取扱懇切を極め近來客室を増築したり、設備整頓し投客常に麁集せり。

○敦賀屋 (大町三丁目) 秋田銀行、郵便局、警察署に近く商人客多し。

○高西 (上肴町) 上中等客多く、膳に上る魚介新鮮なり。

○竹小 (上肴町) 高西と伯仲の間にあり萬事手輕に

して體裁亦高西と相似たり。

他は甲乙論すべからず、一括して之を紹介す

家	號	位	置	電	話	家	號	位	置	電	話
關	根	屋	驛	前		六	三	三	浦	屋	大町三丁目 一三六
木	村	屋	同			六	九	二	本	柳	大町一丁目 二一四
今	野	茶	町	扇ノ丁		六	七	沖	の	口	本町四丁目 四一九
山	田	同				二	一	龜	屋	上肴町 二六七	

●下屋宿

屋	號	位	置	電	話	屋	號	位	置	電	話
不	二	館	龜ノ丁東土手			太	平	館	下	長	町 五二九
浩	養	館	土手長町			秋	田	館	鷹	匠	町 四八三

●料理屋

本市の料理店は地方にして庖丁の好妙なること誇るに足る、而して一般に座席優美にして殊に川反

通りの料理店は旭川の清流に望み所謂淺酌低唱に
嗜好なり。

家	號	特	長	町	名	家	號	特	長	町	名
俱	樂	部	日	本	料	理	土	手	長	町	志
龜	清	同	川	反	四	丁	目	琴	富	貴	同
柏	木	蒲	燒	同	二	丁	目	魚	金	同	川
富	貴	亭	日	本	料	理	田	中	町	中	野
常	盤	同	川	反	五	丁	目	千	秋	軒	西
丸	世	牛	鍋	同	三	丁	目	龜	川	同	同
杉	原	同	座	頭	小	路	松	風	亭	日	本
都	庵	そ	ば	川	反	四	丁	目	松	雲	す

●菓子舗

菓子製造は一般に進歩し殊に秋田落雁は茶媒とし
て茶味優れ翁飴も又名物なり

○榮太樓 (秋田落本舗)川反二丁目にあり製菓頗

る進歩的にして意匠嶄新を極め高尚美味の菓子を
賣る。

○開運堂 (翁糖製造元)川反四丁目橋角にあり榮
太樓と對比すべし。

○千秋堂 洋菓子製造販賣)茶町梅ノ丁にあり支
店多く營業頗る手廣し。

○塚本高砂堂 (小豆諸越)通町橋角にあり製菓風
味佳良なり。

○中野屋 (酒滿頭)滿頭を以て名あり製菓頗る萬
人の口に適す。

○榮太樓分店 土手長町にあり製菓の風味高尚に
して賣行き多し。

○杉山 (越諸とせんべい)茶町扇ノ町にあり舊藩

時代の御用菓子屋なり。

笑而不答心自閑

●秋田音頭、ヨシヤレ節

秋田音頭 名物の秋田音頭は元士族町に濫觴し柔
術の手より出てしといふ、故に往昔は武骨にして
士家の子女これを躍りしものなりしと雖も今は全
然躍と化し五六人を組ませ、揃ひの装束するを本
体とす。

この躍の特所は一般の舞踏の逆手を以て躍るにあ
り、音頭は約九手を一組となせども宴會席上等に
ては五手または三手に畧して躍る、三味線、太鼓
笛、小鼓、摺り金等を以て嘶し頗る賑かなるもの
にしてまた花音頭、笠音頭、組音頭等の種あり本

居長世氏の秋田音頭に關する意見中

西洋の歌は十六小節より成る秋田音頭は二重三十二節より成りて繰返すは完成せるものなり、又柏子は二柏子にして野趣あり輕快にして鄙しからず云々

歌詞

産物盡し

秋田名物、八森鱒、男鹿で男鹿鱒卵、能代春慶檜山納豆、大館曲わつば。

有名なるコノ字盡し

秋田名物、コノ字つまんで云ふならば、子供コに香物コ、木皿コに皿コ、酢コに醬油コだす。「特にコを附す」

ヤートセ、ヨイヤナ、キツタカサツサ、ドンド

ツコイナ、ドツコイ

「二丁目西側二階の上にて 猫コか二疋して」ソ

ソレソレ「煮しめた鯨をにつたら噛みして二疋

でにらんでだ」キツタカサツサ、ドンドンコイ

ドントコイナ

ヨシヤレ節 昔しの秋田節なるか追分節と都々逸

と調和せしもの、如く一種の哀調を帯べり、今は

老妓の外唄ふもの少し。

歌詞

よしやれ離しやれ、わしや帯切れる、帯か切れ

ても氣か切れぬ。

長い大小(刀)の、下緒に縋り、いつまで勤めを

させる氣か。

片山小かけの、わしや朧月、晴れて逢はれる身ではない。

寝てか起きてか、今此處通ふる、實ありや寝ても起て來い。

國を出てから、今年でこゝせ、いまでもむかしの食客 啞鈴

●竿 燈

「眠り流し」と謂ふ、七月六日七夕を祭るか爲めにこれを行ふ、大町茶町所謂昔の親方町を除くの外、外町各町より各々の紋章を附せし燈籠約二尺ばかりの丈のもの二十四五より四十七八個を縦竹長さ一丈五六尺のものに横竹を結びつけ、それに吊し

夜に入れば灯をともす、其形は稻穂の成熟せる様に凝せしものなりといふ、大中小の三者に區別し

大は即ち壯年、中は十七八才より二十三才小は十二三才のもの之を擁し、各々意匠を凝らせる装束をなし、太鼓打ち、笛を吹き勇ます掛聲をし

て各町を練り歩き其竹竿を額、肩、腰、指頭等に据へて技巧を盡す、其壯觀い謂べからず。

●秋田萬歳

秋田萬歳の謠ふところ頗る古稚の風調を帯び其高尚なること他に比をみず、其地の文句は國主を祝福し、佛教の隆盛を賛したるものなり、地の文句一段終りたる後太夫と才藏との間に一場の物語をなす、其物語は詣謠を交へ滑稽にし腹を抱へさる

へからず。

御國萬歳

「御國も榮わて御在します、御ン城造りの結構は門々な九ツ、樓々の其數は玉を連ねし如くなれば極樂淨土に異らず、簡程目出度御城下に、名のある町は三十六町、其外數知れず、寺の數は三百三十三寺なれば、北に當りて天徳寺、香の煙は雲に上る、何時も絶わぬ御燈明、光り輝く御靈屋偕水上には藤倉觀音、水下には古四王權現、海の面を眺むれば、天竺の方よりも綾や錦を帆にかけて數多の寶を御船に積みて、秋田の港へ船が着くぞや、誠に目出度候へ。」

秋田藝者

秋田藝者の名は近く世に喧傳せり、一般に美姬揃ひなる点に於て己に關東北第一の名あり而して服裝の美は京地柳橋のそれに比すべしと雖も一旦方言を遠慮なく用ふる時は京地地方人に色消しなるべしと思はる、所謂藝妓屋町と稱するは旭川の四橋畔を中心として三橋畔五橋畔に亘り藝妓屋二十餘戸あり而して之に抱へられ居る者歌妓舞妓合して八十餘名亦盛なりと謂ふべし。是等の藝妓舞妓は客の招聘に應じて酒樓旗亭に入し杯盤の間を斡旋して與會を助く、玉代は三時間にして壹圓貳拾五錢なり、舞妓は同七拾五錢なれども穴勝高價なりと云ふべからず、纏頭として壹圓以上與ふれば喜び、與へざるも怨まず。

遊廓

遊廓は市の西北端なる南鐵砲町、俗稱常盤町にあり、時田屋、白根屋、櫻屋、栗田屋等名あり、然れども本市の遊廓は他に較して一般に劣れるか如し、また遊女の装ひは京地方の如く絢爛にあらざれども美人多く嫌味少なし。

縣内名邑に至る里程

各地に至る里程は秋田市大町三丁目秋田銀行前の元標よりとす。

名稱	里	境	名稱	里	程
土崎	一里二十七町	五城目		七里一町	
本莊	十里十一町	能代		九里六町	
刈和野	九里三町	橋		十六里十二町	
神宮寺	十二里十三町			二十一里十町	

矢嶋 十八里 鷹巢 二十二里三十四町

大曲 十四里 小阪 三十六里

角間川 十六里十八町 大館 三十里十三町

六郷 十六里八町 花輪 三十八里

角館 十九里 金澤 十八里三町

横手 十九里二十五町 湯澤 二十四里十八町

西馬音内 二十六里二十八町

元標より縣界矢立峠まで三十五里十六町、同じく上院内杉峠までは三十里二十五町なり、而して東京日本橋まで百五十三里あり。

雜記

- 本市の町數 壹百七十三ヶ町
- 郵便 本市の郵便局は一等局一ヶ所、三等局九ヶ所、郵便切手賣捌所六十三ヶ所、郵便函數七十三ヶ所なり
- 電話 市内電話の加入者は四百六十一名、交換局一、交換手三

して喉黒鯛、初茸、松露、菜萁、木、苺、香料及び八丈縞の染料たる玫瑰、莫梅嫌、新屋諸越、白玉粉、氷豆腐、菊海苔、清酒、繭絲等ありて今は廢れたるも紅花染に名あり俗謠あり

昔し馴染み紅花染は

色が褪めても(黄)氣が残る

〔川尻村〕(距秋田市元標十五町)巖一本を隔て、秋田市に接す、俳人吉川五明の出生地を以て名高し、本村に三森山神社(總社明神)あり元三山神社聖武天皇神龜元年川尻郷三森(秋田城に鎖座す一千百餘年前の古社なり、祭神に兩皇太神宮初め山城大和の二十社を奉祀せり、社内杉松天を遮り幽邃にして鎖夏に適す、五明の句あり

鳥の糞地に音高し夏木立

五明

本村に秋田監獄あり數町に亘る赤き煉瓦の巨壁はこれを遠方より望む時は宛然歐州の古城を見る如し、錢座跡といふあり享保二年佐竹義峯の時代に錢座を興されし地なり。

〔八橋村〕(距秋田市元標十五町)市の西位にあり巖一本を隔つるのみ、舊藩時代には此地士民の遊樂の地にして明治中年迄茶亭、酒肆を有し武藏野亭の名今猶ほ腦裏のうちにある、藤茶屋も今は名のみとなれり、往時は見世物小屋、旅芝居小屋等軒を並べ居り般賑を極めたりしといふ、名物は日光唐辛子及嘉永の頃より始まりしといふ粗製土人形あり。

〔寺内村〕(距秋田市元標一里)名勝古蹟に富み出羽柵(國府)秋田城のありし處にして好古家の低徊願望去るに忍びざるの地なり、秋田産牛馬事務所あり、往古高清水、秋田、高清水岡と稱せる地なり、左の名勝古蹟を列擧すれば左の如し
伽羅橋 長者が堤、櫻姫の墓、晝寢山、野中の池
空素沼、行逢の間跡、議定嶋、龜背阪、綾の小路
旭屋敷、夕日邸、油の御殿、延生の水、幣切山、曙御殿、梅邸、旅寢巖、梅湯茶屋、剪綏水、緒環路、紫波の渡、面影の水、妻戀山、舟か津長者、旭山、旭長根、十二天林、組屋敷、鍾撞林、東門院、大悲寺跡、二一五輪、古六騎屋敷

秋風が吹いて世の中の嫌になり

あれい

追加

●新聞

○國民新聞支局 從來兩羽版たりし國民新聞は、四十五年二月十一日當市に支局を設置し新に秋田版を設けたり、内田平三郎氏これか支局長にして堀井汀水氏主筆なり。

●學校

○秋田縣盲啞學校 東根小屋町に在り。

●商工人員數

○製造工業 五六七

○販賣業 一、八八四

●火葬場

市内には無之も寺内村、川尻村の二ヶ所に在り。

●養魚場

市内上中城町にあり、金魚、鯉等を養育す。

●煉瓦工場

川尻村にあり、田中某これを經營し一ケ年の産額二萬圓以上なりといふ。

●市に於ける前途有望の製造業

○本莊染物合資會社 新田房吉氏代表社員たり而して前途益々有望にして販路は廣大となり、東北六縣及北海道かこれか需要地なり。

○秋田製綿株式會社 綿に對する需要は年々其多を加へ前途頗る多望なり、社長成見清吉、技師中澤氏なり。

○小嶋工場 秋田縣にあつて將來大に發展を計ら

さるべからざるは漁業なりとす、これに應せんか爲め製網業の有望たるに着眼したるは實に達觀のこと、云ふべし、經營者小嶋彦右工門氏なり
○量器工場 茶町梅ノ丁にあり、鈴木清太郎氏經營す、個人經營としては規模頗る大なり。

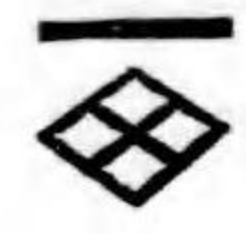


著名商店及
都々逸名吟集

○春戸の夕月端午の晴を菖蒲湯にして洗ふ駒

秋田市茶町菊ノ丁角

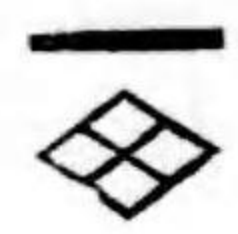
各地産著名
美術瀬戸物



武幸陶器店

武州狭山繁田園製茶秋田一手特約販賣元

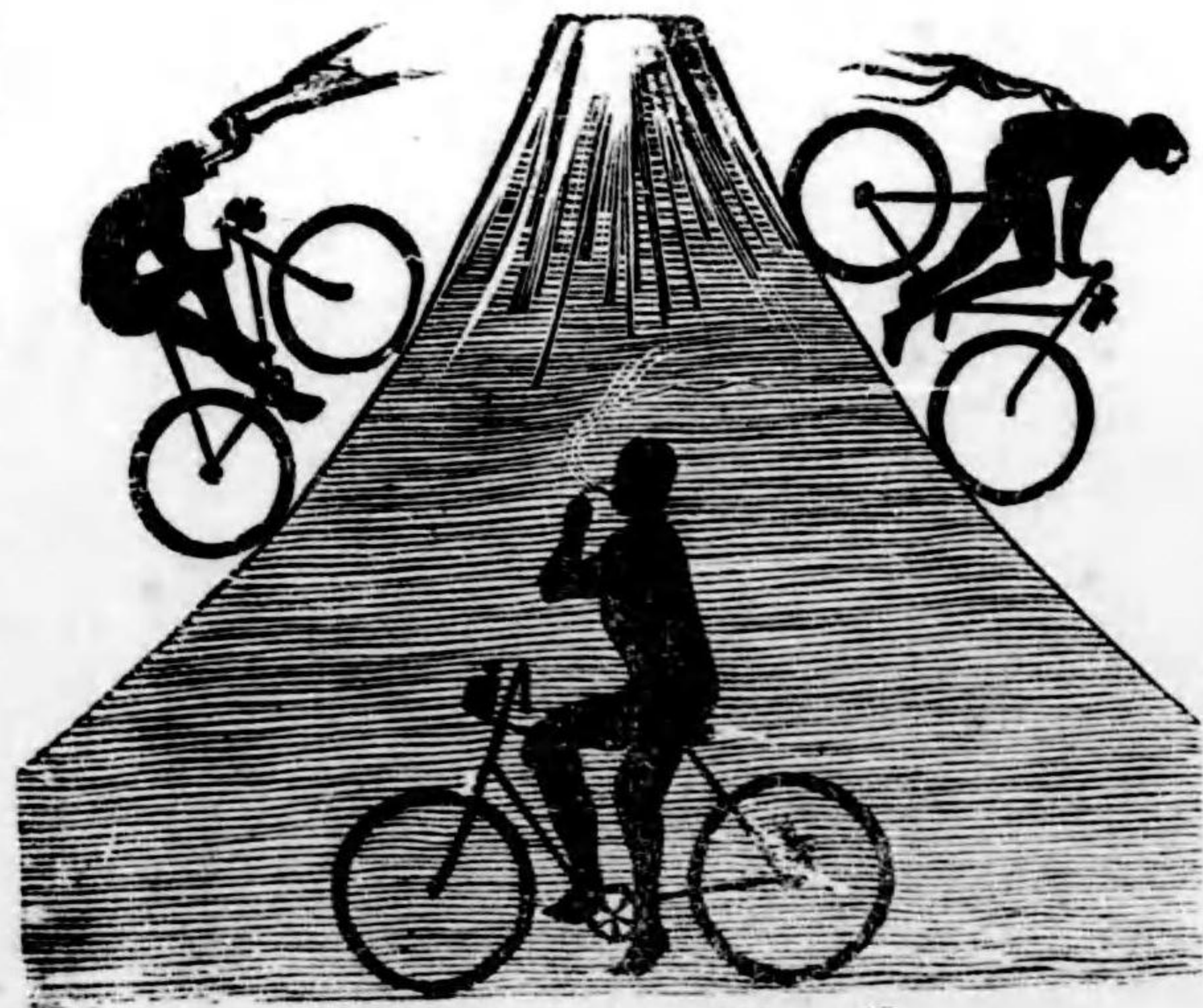
狭山御銘茶



武幸陶器店茶方

電話 三三五番
振替東一三〇五番

最新各式自轉車販賣



秋田市茶町
遠藤自轉車店

醫科器械一式
顯微鏡器械
度量衡器
家庭衛生器具

秋田市茶町扇ノ丁廿番地
いわしや支店

三浦畑四郎

電話五百拾八番
振替口座一九七五四

賜
宮内省御買上光榮
皇后陛下御買上光榮
各宮殿下御買光榮

國産金銀細工美術品商

秋田市川反三丁目橋角

金賞堂 刃 澁谷金次

電話七十四番

營業種目
純金銀製
花瓶 香爐 火爐 置物 湯沸急須 茶托
茶筒 盃 コップ 煙管 輪立 時計 鎖
指輪 洋服 卸手 打簪 卷煙草 入婚禮用
簪 根掛 たぼ止 帶止 金具 襟止 ビン
其他 各種

和洋小間物雜貨

洋傘 柳行季

大特別安賣

秋田市大町三丁目
秋田郵便局向

傘平野商店

大正堂書店

新刊書籍

●新しき讀物と
●珍らしき食物と

各地銘産食料品
山城宇治御銘茶

喜多屋商店

○男二十は裸で検査 女二十は戀衣

大町三丁目

吳服太物

冬

遠清商店

秋田市本町四丁目

洋小間物類
酒罐詰卸商

秋田市茶町梅ノ丁

河村周吉商店

電話 壹壹〇番
振替貯金口座東京八三二

吳服太物商

金龜谷吳服店

秋田市中通町

書籍雜誌
理化學器械
博物標本
樂器種々
紙鉛筆種々

秋田縣國定教科書特約販賣所

成見清兵衛

秋田市茶町菊ノ丁
電話百六十七番
振替東京九六八三番

吳服太物商

地織綿元祖

小松商店

秋田市大町二丁目
電話四二七番

吳服太物

洋傘

羽織紐

あ青池商店

秋田市横町

めぐね

廣小路

木内雜貨店

電話六四番
振替口座
東京九〇九九

鐵類亞鉛引鐵板亞鉛板
其他洋釘士丹線一式販賣

相澤金物部

秋田附屬鐵工所
電話一四三番
秋田廣小路停車場前
電話一四三番電略(アイ)

○風が吹く吹く木の葉が落ちる落ちる木の葉に秋を知る。

輸運物貨

奥羽線秋田驛前

秋田三立社

電話一六一番
振替東京五九五番
口座

キリンビール
三ツ矢サイダー
辰馬釀造銘酒
白鹿特約販賣

秋田市大町三丁目

櫻庭鐵藏

電話三一九番

國產
元祖
木通蔓細工

製造元 日乃出商會

秋田縣廳協

(定價表ハ御申越次第送呈ス)

内 外 雜 貨
水 道 用 具
度 量 衡 器

秋田商會

秋田市土手長町
電話三五六番

和 洋 小 間 物
日 用 雜 貨



山内商店

秋田市上通町四十番地

電話四二一

電 略 (ヤ四)

大 義
減 親

秋田實業週報

秋田市(郵便局向)

中村齒科醫院

電話二一〇番

各地產陶磁器種々

那波陶器店

秋田市豊嶋町
電話一一番

○家と名がつきや埔生の宿も主と共ならいとやせぬ。

鑛山専門學校
縣立各學校用品一式
小學校

理化學器械
樂器類

廉價と正直と

入念とは

本店の特色なり

秋田市大町一丁目

卸小賣 成文堂教育品

共同販賣所

店主 市川護直

電話六〇四番

振替貯金口座

七六三五番



時計類並ニ附属品
金銀杖眼鏡及双眼
鏡貴金屬寶石入装
身具蓄音器及音譜
各種其他時計及蓄
音器修繕自由

秋田市茶町菊ノ丁九番地
岡田時計店

電話六十一番
電路ヲカク
振替口座一六二四番



本店の特色は商賣大切の勉強主義なことで實
に本店の開業は元祿四年と謂ふ古い昔のとき
で上等飛び切りの醤油と云へば先第一に當店
の醸造した品が推されるのであります

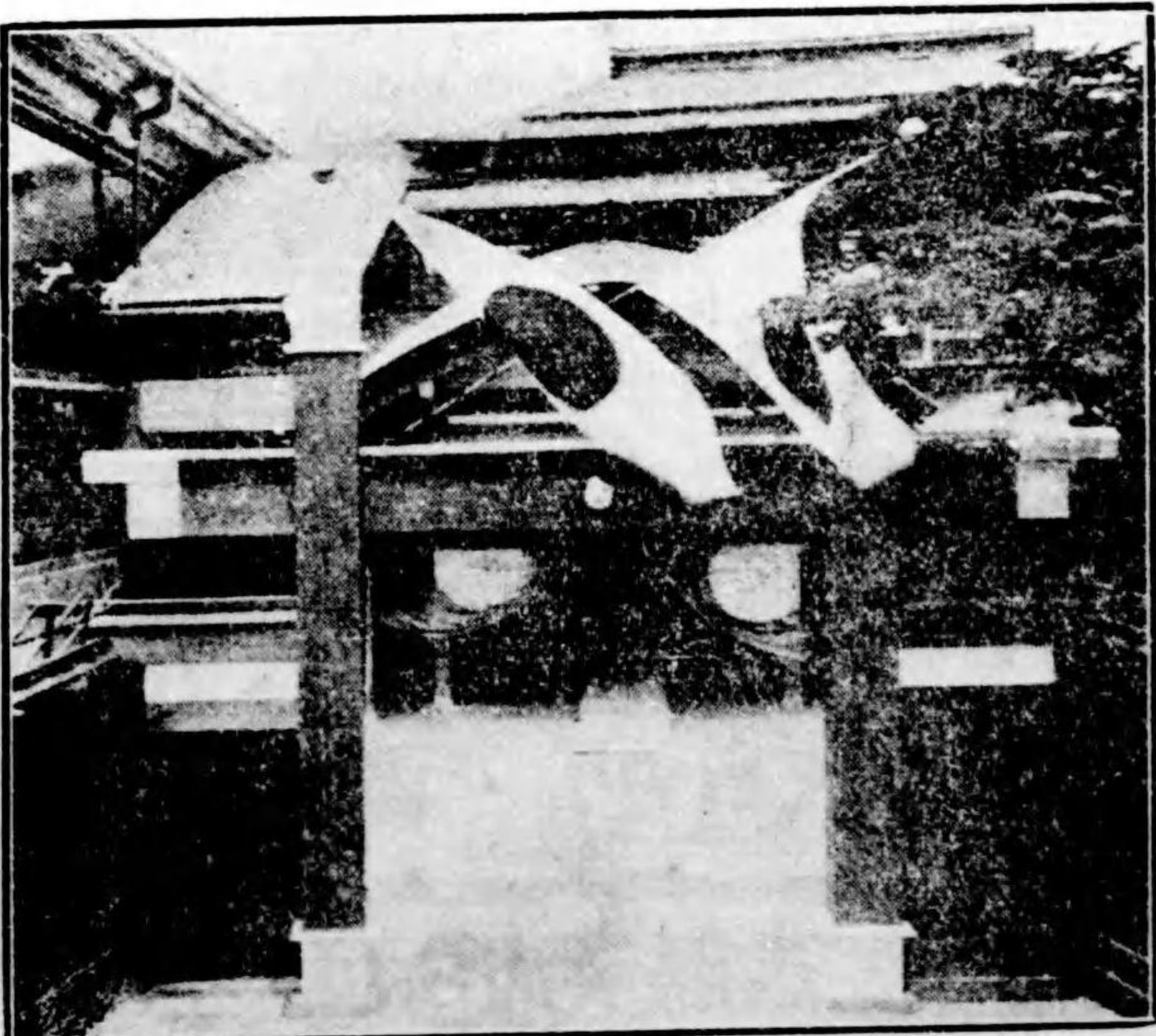
醤油店



秋田市大町三丁目
田中太吉

電話七十番

○素人と苦勞人といわんすけれど雪といふ字も墨でかく。



旅館 石橋達摩館

秋田市市長町 電話十四番

實確的道士武



御印章版木
赤ゴム印彫刻
ゴム印鑄造

諸印材印肉
スタンブインキ
卸小賣
附屬品一式

廣明堂印舖
近江金治
秋田市上肴町

○夢の浮橋短夜絶てて蚤を眩やく明の鐘



秋田市大町二丁目
蜂屋時計店

誠實勉強

御婚禮服一式

專賣特許
吹留眞綿
特約販賣

吳服太物
國産織物
古着洋服



秋田市上通町
中季商店

電話三百二十三番乙
電器(○ナカ)又ナカ

弊店は大正の新時代の
新運に伴ひ精神的
薄利多賣を主眼とす

御婚儀御葬儀用
御紋服類 其他
貸貸御相談可仕候

畠山吳服店



蚊帳大勉強

秋田市上通町
畠山吳服店

和洋毛織物
正畧服調進

山崎洋服店

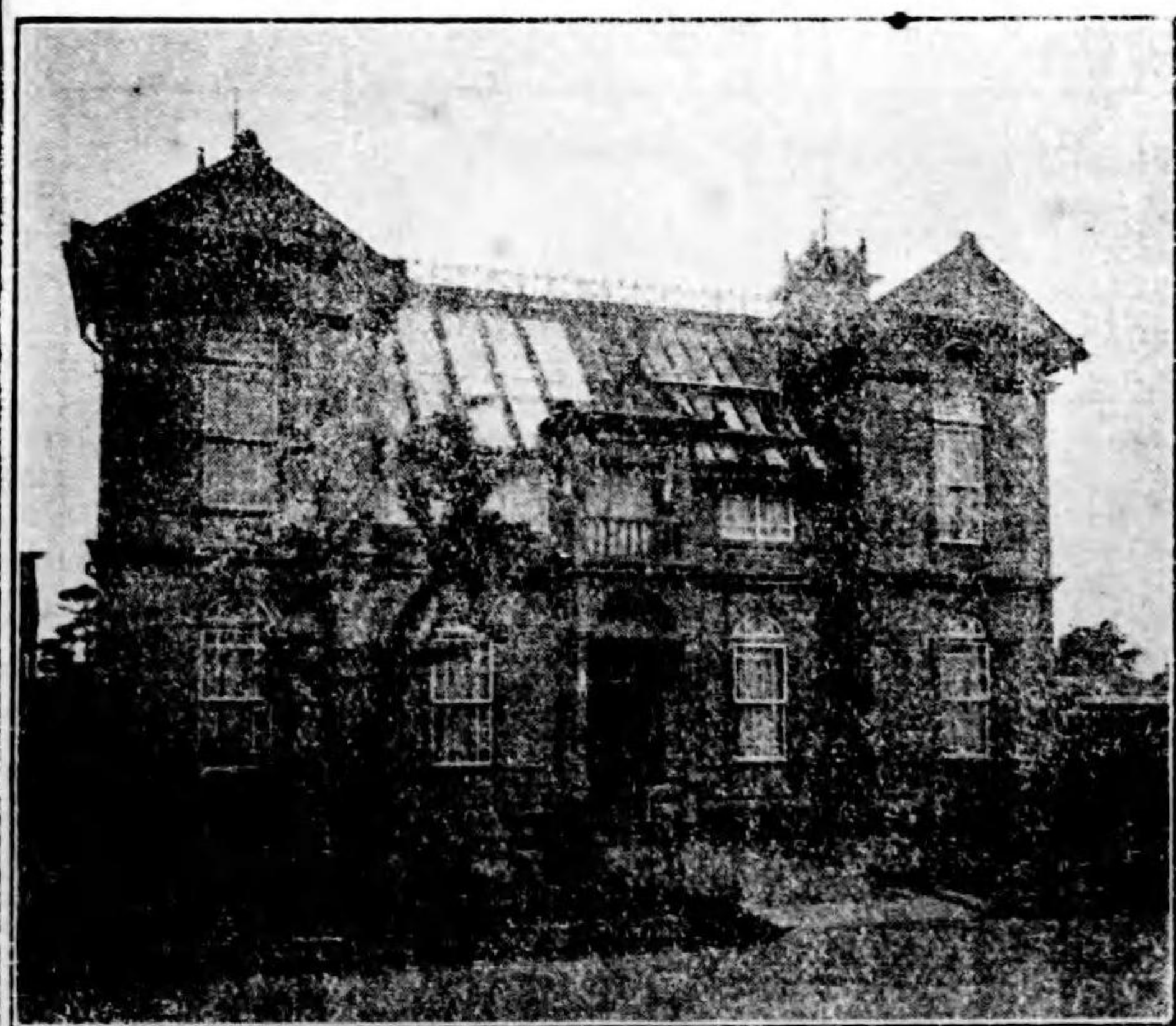
菅原新藏

秋田市大町二丁目
電話二一七番

弊店は常に如にせば

○最も堅牢に ○最も實用的に
○最も經濟的に ○最もスタイルよく

調製提供するを得るやを若心
研究しつゝあり



秋田縣廳協
八柳寫眞館
電話百三十八番
電略〇八

夜具蚊帳 卸小賣
羅紗製品 卸小賣
古着伸繼 卸賣
布團綿 製造

秋田市本町四丁目

① 山尾友吉商店

電話五四八番

○琴の手捌き袖輕やかに替へた單衣に驚る風

○銘産秋田焼陶製及窯元、重信堂

秋田市保戸野表鐵砲町二一



金子和吉

電話六二七番

○秋田木材株式會社挽材及和洋家具
建具特約販賣

○草履類製造販賣

○秋田瓦斯株式會社コークス、コー
ルタール特約販賣

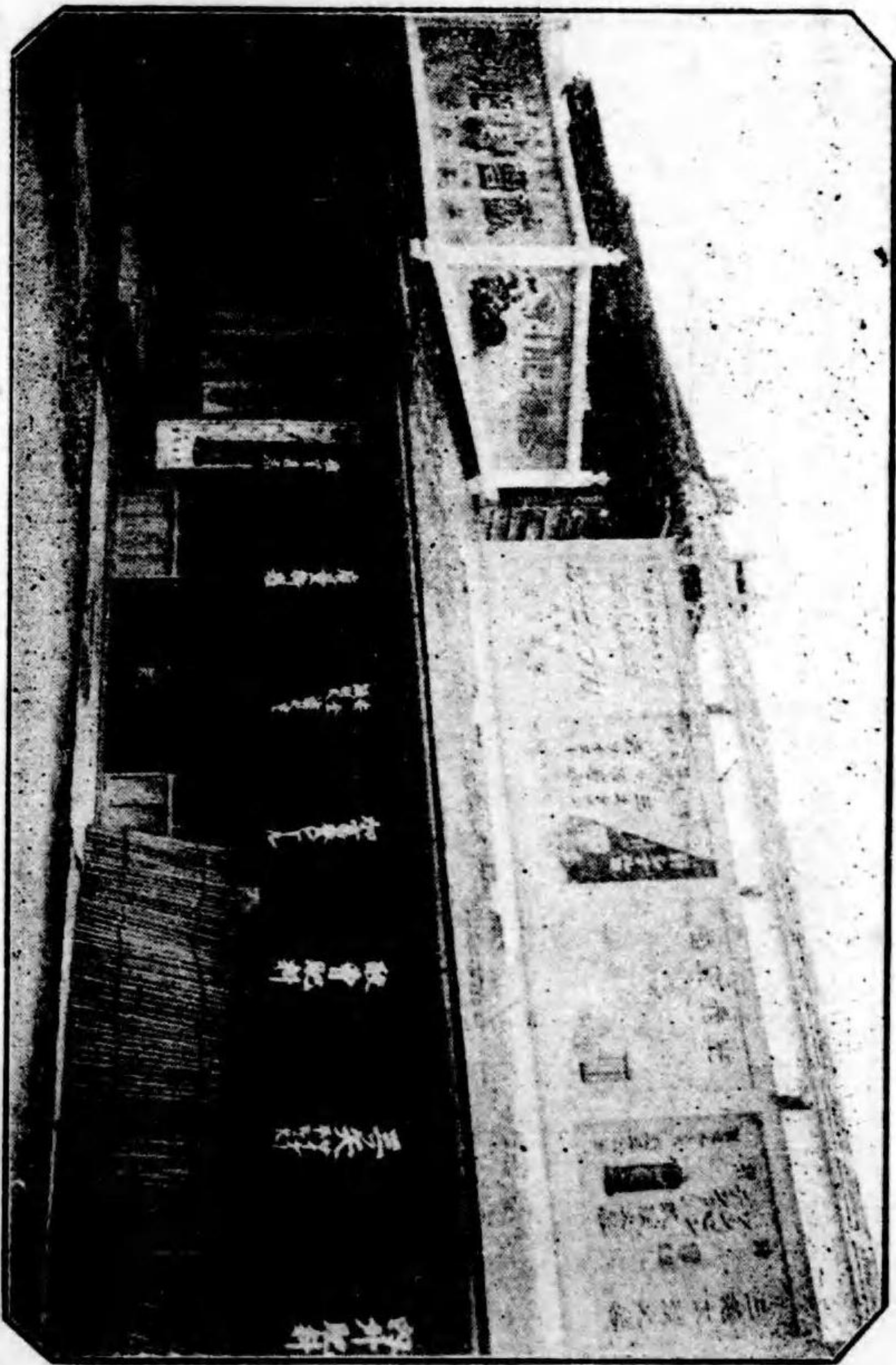
同 賣 店

秋田市大工町

佐藤富士吉商店

秋田市大町一丁目 電話二二八番

- 帝國鑛泉會社代理店
- 加富登麥酒會社特約店
- 三ツ矢サイダー
- ルコ平野水



- 煙草元賣捌
- 佐藤文右工門煙草部
- 關東酸曹株式會社代理店
- 大豆粕及輸入肥料各種
- 度量衡器販賣
- 農工商會消火器特約店

美味 灸 滋養

本店 南秋田郡飯岡川村

醬油 味噌

小玉合名會社

支店 秋田市中龜ノ丁(稅務署通)

電話 二一六六番
振替貯金東京 一五八番

○隣り町から祭りの雨を詫びに来て汲む朝の酒



庭園ノ一部

秋田市市長町

小竹林旅館

電話 五十五番



三色堂
 學校用品專門造
 花材料一式各種
 印刷及繪葉
 書發行所

秋田名師繪はがき
 美人
 國產
 發行元
 落摺
 樺細工

加茂小間物店
 秋田土手町

耳鼻喉科

入院隨意

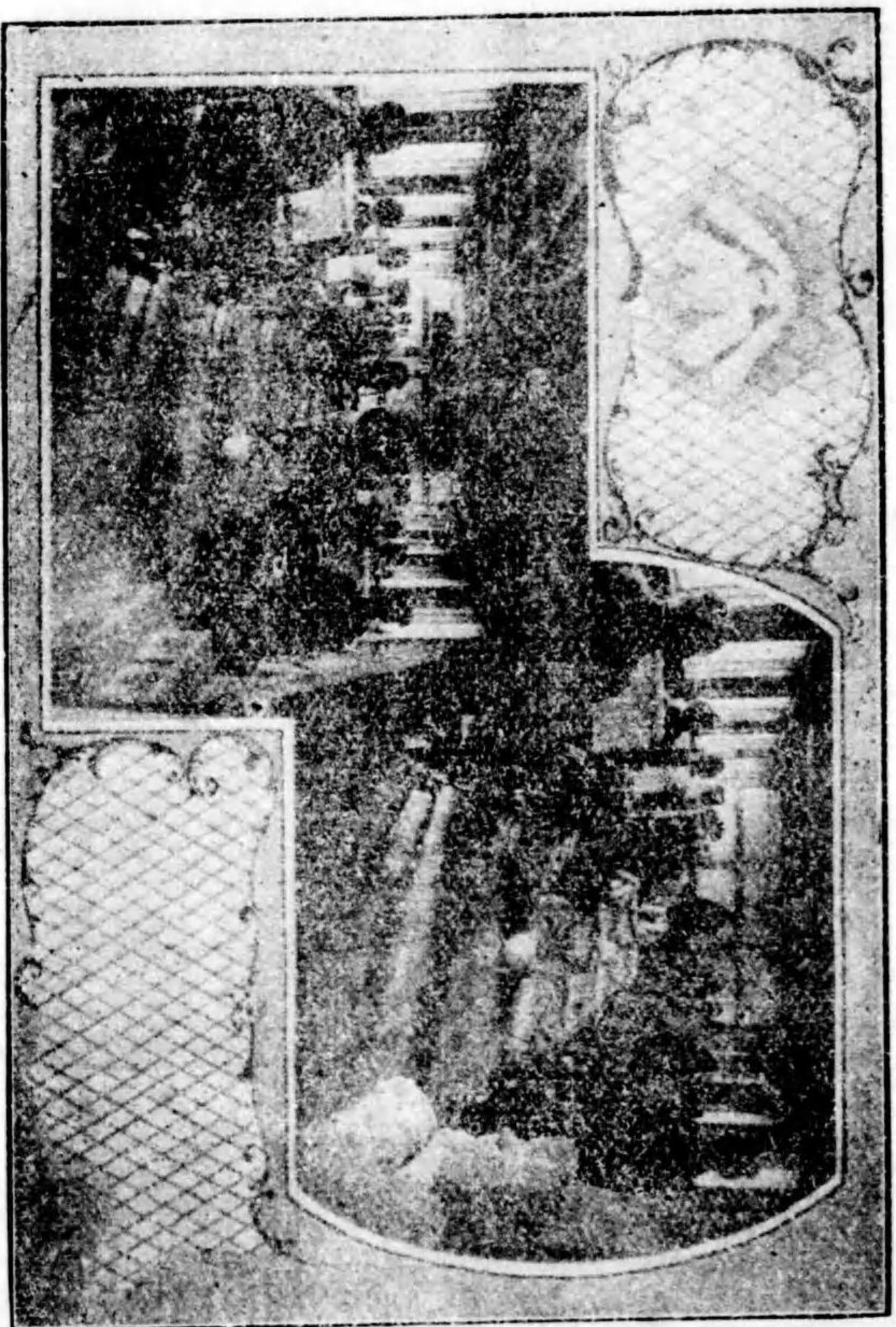
秋田市西根小屋中町

佐野耳鼻喉科醫院

院主醫學士 佐野良太郎

電話二四三番

弊店附屬工場ニハ製網、製綿等ノ最新式
 機械ヲ設置シテ如何ナル御注文ニモ應
 セラレ候間多少ニ不拘御用命ヲ乞フ



富田工場ノ景

小嶋彦右門

秋田市茶町菊ノ丁

- 擦糸、マニラロープ、各種製綿
- 裁縫用糸各種、南京麻及
- 漁網並ニ綿糸機業用綿糸
- 地日生命保險株式會社秋田代理店

電話六十一番

○玩具涼しい唧筒の水の的にして散る芥子の花

祖元漬落田秋産國



▲松の風ながるゝ室にたてし茶と忘れがたかり落漬の味。

▲箱の蓋されば春日にたゞよへる春慶節の琥珀の色香。

▼秋田名物菓子發賣元

- ▼秋田富貴漬
- ▼秋田路長命羹
- ▼秋田諸越
- ▼田毎の雪
- ▼芭蕉煎餅
- ▼香味落雁
- ▼春慶節糖
- ▼ラヂウム糖

祖元漬落田秋産國



▲落漬をふと思ひ出ぬ旅の日の秋田言葉のわしれがたくて。

▲その昔コルボツクルが雨やごりせしてふ路に名ある秋田か。

○秩父よいこ青葉の軒に蠶飼ふ母絹織る娘

- ▼秋田八丈諸越
- ▼梅の花湯
- ▼田澤みやげ
- ▼秋田羊羹
- ▼磯みやげ

御注文の葉御一報次第進呈

秋田縣廳前道

榮太樓

秋田市長町

分店

電話四十五番

電話三四四番



りん病消かち内服新薬

ゴノレーア

一劑
ツ〇〇

縣内各藥店ニ有

發賣元 秋田市池永小路 井上喜辰堂

如何ニ猛烈ナル淋病モ本劑ニ依テ必ず撲滅ス 乞ふ(唯一劑を試よ)...

秋田名産 露漬 秋田諸越 梅羊かん

其他和洋菓子製造販賣

珍菓 翁糖製造本舗

秋田市川反四丁目橋角

開運堂たきなや



加賀谷家三郎

電話二百二十番

近海産 北海道、水戸、
青森、磐城、
三陸、酒田、
鶴岡

各地輸入鮮魚荷取扱店

秋田市上肴町魚市場

海産物 鮮魚問屋
委託商

冬加賀龜商店

電話四百六十九番
電略(カ)又ハ(カメ)

○庭にざくろの初花見きて夏のこゝろにわたる書院

本家、本元、灘は
山邑吟醸の直仕入

天下品 櫻正宗

澤の鶴

加茂川

白菊

白鷹

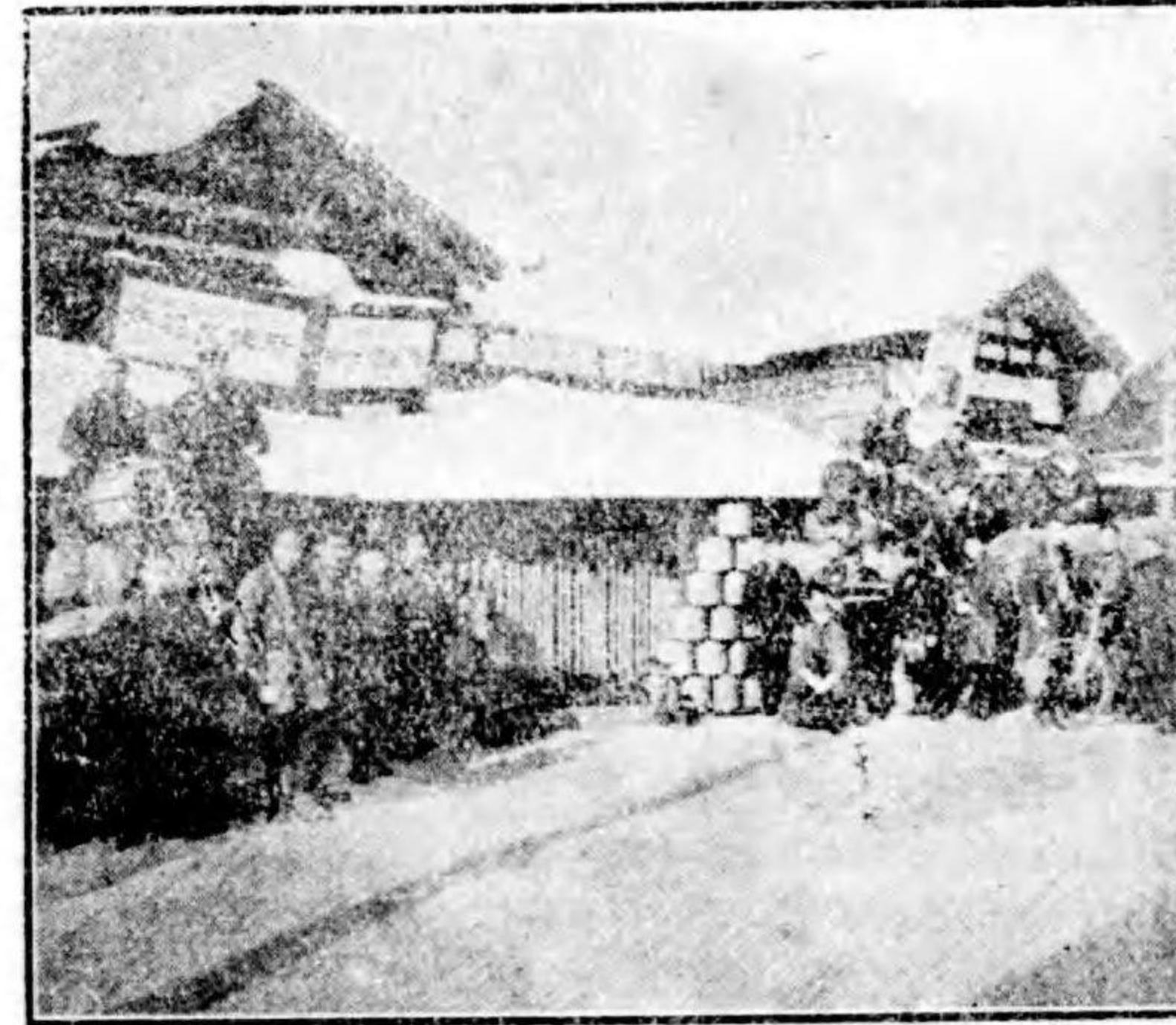
酒類販賣業

秋田市茶町扇之丁
合資會社湊商店

湊太市郎

電話三六六番

專 門 營 業 品
 衡器製作修履
 度量衡器測量
 製圖器械定規
 文房具其他附
 屬品一式販賣
 卸 小 賣



支店 秋田市茶町二丁目番地
 支店 秋田市檜山表町
 學星堂 柳原庭之助
 柳原庭之助
 木清太郎
 木清太郎
 河邊郡牛嶋町 米澤榮吉
 電話(番八六二)略電(セス)
 振替貯金口座東京二九一
 助之助

花散 櫻皮細工 美しき皮を留む
 (秋田名産)

高 尙 優 美
 床飾類 菓子器類 はりさし箱
 花瓶類 柱掛類 筆 棚
 提煙草入類 茶盆類 筆 入
 卷煙草入類 端書入類 ステッキ類
 茶筒類 硯 箱 煙草盆
 堅 牢 耐 久

●吉野山にて賣る櫻皮細工の本場は我が秋田●
 (贈られた人も喜しく)

▼斯くの如き手輕なる土産はなし
 ▼斯くの如き上品なる土産はなし
 ▼斯くの如き廉價なる土産はなし

●秋田の本場たる角館唯一の名工は我が新田目工場主任●
 (贈られた人も嬉しい)

○百合の初花蚊帳から透ひて庭に短夜白むもや

秋田新田目本商店
 秋田新田目本商店
 電話(七三一) (四一四)

賜 閑院兩宮殿下御撮影之榮



於大日本赤十字社秋田支部總會

— 館真寫藤佐 —

常磐生命保險株式會社

秋田代理店

秋田市大町三丁目

鈴木吉祐

貨雜外内

洋 傘
帽 子

舍吉川商店

町通上市田秋
番二一五話電

告 申

○暮れてゆく田の右から左りさそふ田植の戻り笠

▲動かぬ正札
同じく正札にても動かぬ正札と動かぬ正札との別あり大嶋商會の商品は總て動かぬ正札によりて販賣せられ如何なる事情あるも釐毫だに割引せず、

▲割引せぬ理由
猶ほ割引の餘地ある動かぬ正札は其商品の最低價格により販賣せられざるを証するものにして總て最低價格を算出表示せる大嶋商會の動かぬ正札には釐毫も割引の餘地あるべき筈なし。

▲最低價
動かぬ正札により販賣せらる、大嶋商會の商品は單價にても一タースにても價格は常に同一歩合にして其間に動差なく大嶋商會の商品は如何なる事情あるも割引の御交渉に總てが既に單價にて最低價格にありて動かぬ正札の總てが最低價格にある所以なれば充分御信頼あらせられ續々御用命の程奉願上候 敬白

洋帽子一式
品雜貨



秋田大嶋商會

(電話七十八番)

秋田驛出店電話二六五番
振替口座一一一九七番

刊休無中年



發行所

秋田市大町一丁目

秋田新報社

電話 三百五十四番
振替口座東京八五九七番

資本金壹百萬圓

秋田市茶町菊ノ丁

株式會社 第四十八銀行

電話四十八番

資本金六千萬圓

秋田市大町二丁目

株式會社 秋田農工銀行

電話七番

資本金壹百萬圓

秋田市大町三丁目

株式會社 秋田銀行

電話一〇〇番

資本金壹千萬圓

株式會社 安田銀行

秋田支店

秋田市本町四丁目
電話三番

〇こまをまかきに立聽く罪の袖をかめてひくいばら

年中無休刊

秋田時事

秋田市大町二丁目
秋田時事社
電話七六番

休無中年

秋田毎日新聞

秋田市中長町
秋田毎日新聞社
電話二二八番

活版印刷
和洋製本
洋式帳簿
諸表引

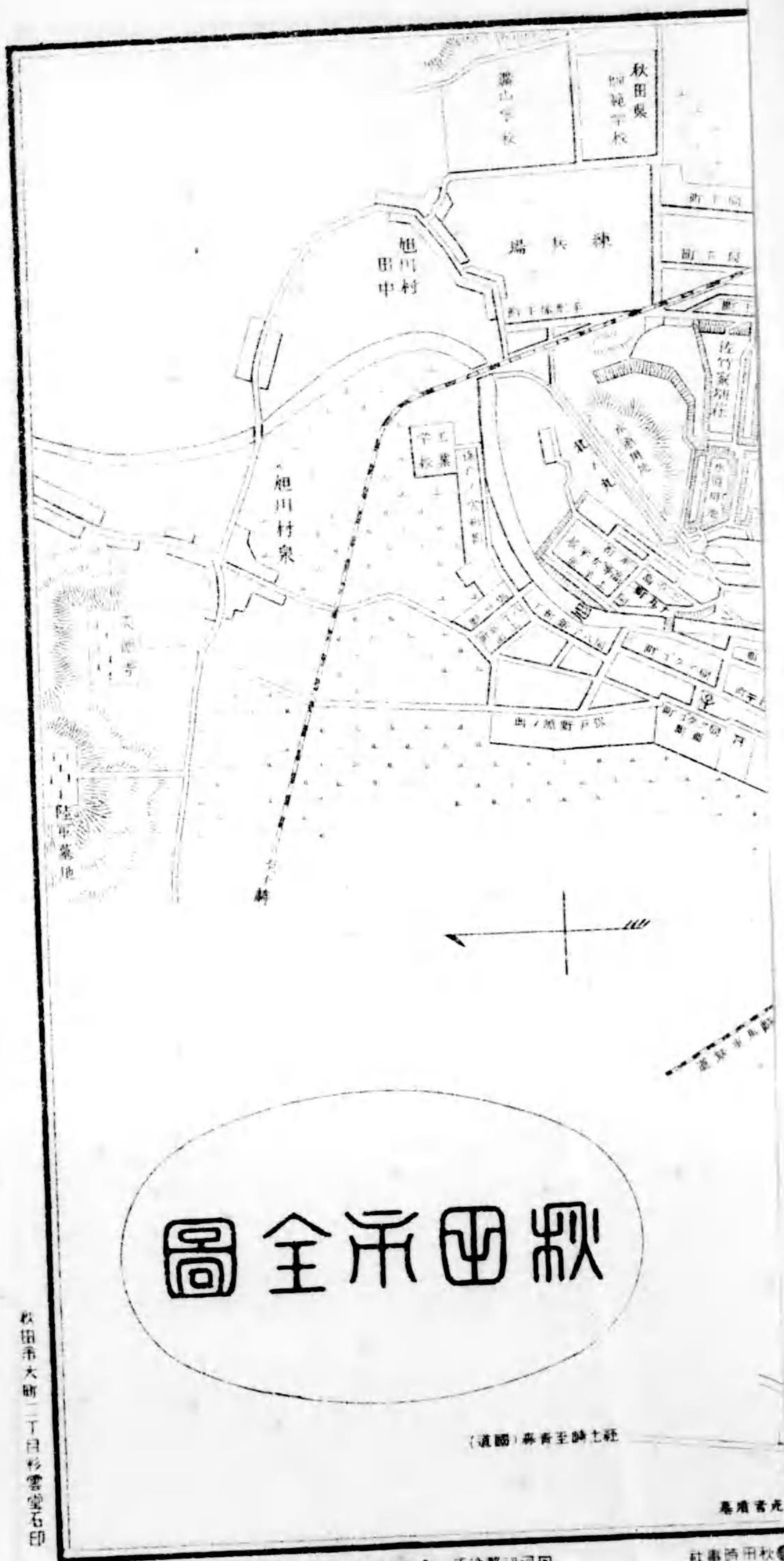
秋田市西根小屋上町

大正活版所

大正二年六月廿四日印刷
大正二年六月廿五日發行

定價二拾五錢

編輯者	秋田市大町三丁目 吉祐
印刷者	秋田市西根小屋上町 吉治
發行所	秋田市西根小屋上町 吉治
發賣元	秋田市大町三丁目 吉祐
成見書店	秋田市大町三丁目 吉祐
片谷大正堂	秋田市大町三丁目 吉祐



秋田市大町二丁目杉雲堂七印

秋田縣立衛生試験場 所後郡辺河田

秋田県立衛生試験場

休無中年

秋田毎日新聞

秋田市中長町

秋田毎日新聞社

電話二二八番

大正二年六月廿五日發行

編輯者

印刷者

印刷所

發行所

發賣元

秋田市大町三丁目

秋田市西根小屋上丁

秋田市西根小屋上丁

秋田市大町三丁目

秋田市大町三丁目

吉祐

吉祐

吉祐

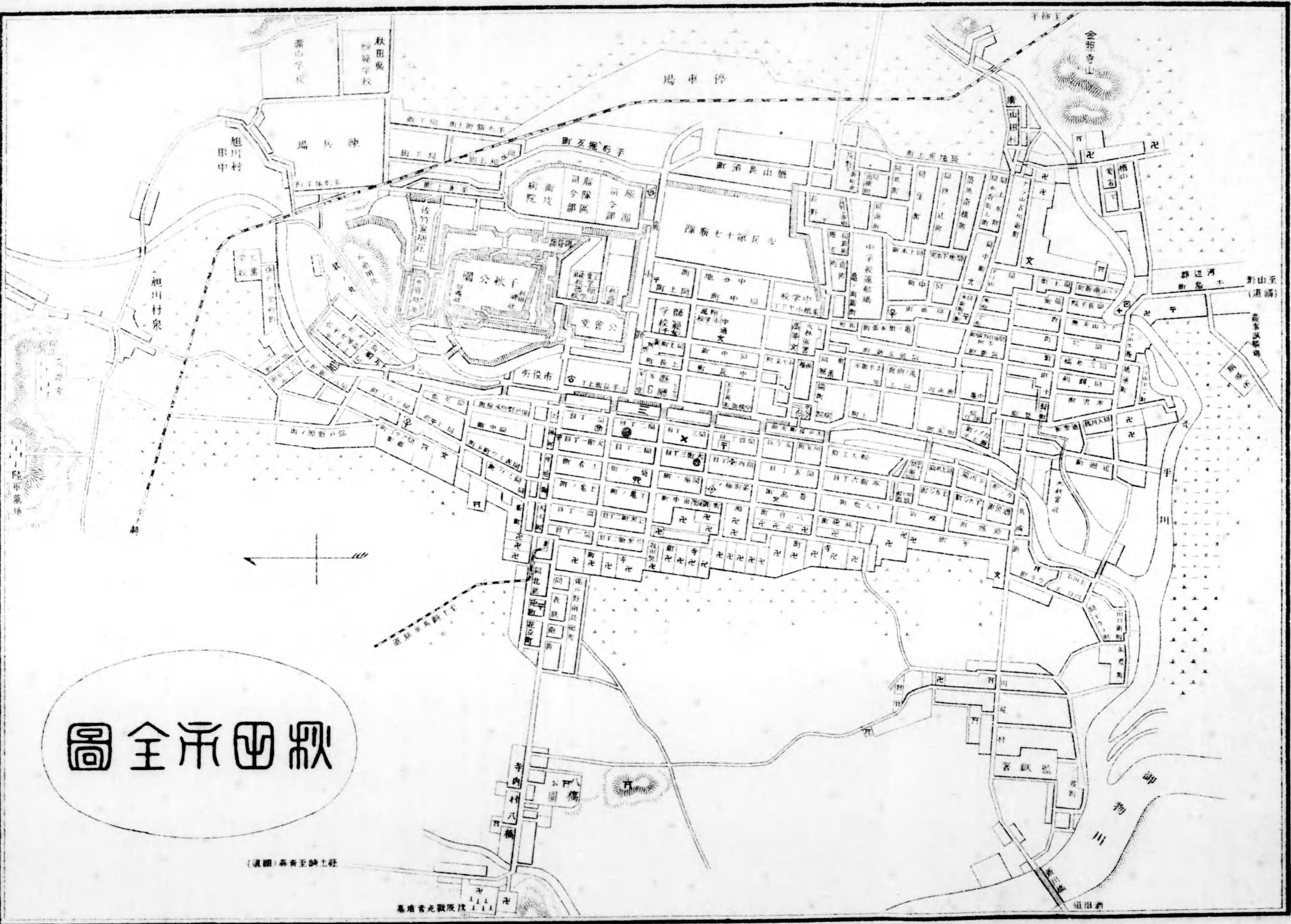
吉祐

吉祐

吉祐

成見書店

片谷大正堂



秋田全市圖

秋田市中長町 秋田毎日新聞社 電話二二八番

秋田市中長町 秋田毎日新聞社 電話二二八番

秋田市中長町 秋田毎日新聞社 電話二二八番

秋田市中長町二丁目杉雲堂七印

御祝儀 物一式



夕

秋田市本町五丁目

新田目呉服店

電話一六八番



Copyright © 1950 by Shintani Shoten, Akita, Japan. All rights reserved.



形付工場



事務所及住宅



染木綿
木綿縞

製造卸販賣

秋田市手形谷地町

本莊染物合資會社

新田房吉

新田儀一

電話二一六番



染工場其一



染工場其二



織物工場

小學校綴方雜記帳

小學校手工科工具材料

小學用改正表簿用紙

ヴァイオリン、オルガン、ピアノ

理科學機械博物標本

ベースボール、テニス、擊劍柔道具

製圖用器械各種

學用品及
運道具御購
ノ入際ハ直
チニ弊店へ
御照會可被
成候定價ハ
早速可申上

所賣販同共品育教堂文成

直護川市主店

目丁一町大市田秋
番四〇六話電
番五三七七京東座口替振

吳服太物
國產織物

秋田市大町二丁目

會社 辻吳服店

電話七七番

和洋諸雜貨
大工道具

秋田市大町二丁目

本 本金商店

電話二五番

珍柄格安而確實

御祝儀物一式

吳服太物國產織物

川口吳服店

秋田市本町五丁目
電話 六三番



終

